



令和4年10月21日

令和3年度「全国学生調査（第2回試行実施）」の結果について

文部科学省では、中央教育審議会答申で提言された全国的な学生調査の実施について、令和4年1月31日（月）～2月28日（月）の間、国立教育政策研究所と共同で、全国の大学生を対象とした大規模なアンケート調査を試行実施し、11万人を超える多くの学生から回答をいただきました。

今般、その結果を取りまとめましたので公表します。

1. 趣旨目的

「全国学生調査」は、「学修者本位の教育への転換」を目指す取組の一環として、全国共通の質問項目により、学生目線から大学教育や学びの実態を把握し、大学の教育改善や国の政策立案など、大学・国の双方において様々な用途に活用することを目的としている。

本調査は、令和元年度の第1回試行実施に引き続き、適切な調査方法や質問項目などを整理・検証するため、試行という位置付けで実施したものである。

2. 調査内容

(1) 調査対象

試行実施に参加意向のあった582大学^{※1}に在籍する学部2年生（約47万人）及び4年生等^{※2}（約48万人）、並びに参加意向のあった短期大学157校^{※1}に在籍する2年生以上^{※2}（約2.5万人）。

※1 試行実施では、調査方法や質問項目などを整理・検証し、全国学生調査の制度設計の確立を目的とすることから、全大学（803大学）に対して試行実施へ参加協力の可否等について意向確認を実施し、72.5%の大学から参加意向の回答があった。同様に全短期大学（315校）にも意向確認を実施し、49.8%の短期大学から参加意向の回答があった。

※2 各大学・短期大学の標準修業年限における最終学年の学生を対象とした。

(2) 調査方法

インターネット（WEB）調査（スマートフォン・PC・タブレット端末等で回答可能）

(3) 質問項目

大学で受けた授業の状況、大学での経験とその有用さ、大学を通じて知識や能力が身に付いたか、平均的な1週間の生活時間、授業形態等、全60問

（その他、自由記述（任意）2問）

3. 結果概要

(1) 全体の回答状況

対象	対象校数	対象学部数 ※短大においては 学科数	対象学生数 ※短大においては最終学年のみ		有効回答者数 ※短大においては最終学年のみ		回答率
			2年生	4年生以上	2年生	4年生以上	合計
大 学	582校	2,117学部	466,351	483,131	59,559	52,782	11.8%
うち基準※合致	328校 (56.4%)	776学部 (36.7%)	223,498 (47.9%)	237,664 (49.2%)	43,896 (73.7%)	40,590 (76.9%)	18.3%
短期大学	157校	304学科	25,433		7,031		27.6%
うち基準※合致	55校 (35.0%)	85学科 (28.0%)	7,932 (31.2%)		4,674 (66.5%)		58.9%
合計	739校	2,421 学部・学科	974,915		119,372		12.2%
うち基準※合致	383校 (51.8%)	863学部 ・学科 (35.6%)	469,463 (48.2%)		89,160 (74.7%)		19.0%
(参考：第1回試行実施結果)							
全体	515大学	1,689学部	407,014人		111,051人		27.3%
集計基準 合致学部	420大学 (81.6%)	1,103学部 (65.3%)	274,428人 (67.4%)		102,104人 (91.9%)		37.2%

※学部単位で「対象学生数が、①60人以上80人未満のとき、有効回答者数30人以上、②80人以上200人未満のとき、有効回答者数40人以上、③200人以上600人未満のとき、有効回答者数50人以上、④600人以上のとき、有効回答者数60人以上、⑤60人未満のとき、有効回答率50%以上」を集計基準として設定。第1回試行実施は学部単位で「有効回答者数が30以上かつ有効回答率が10%以上」又は「有効回答率が50%以上」を集計基準として設定。

<集計基準について>

本調査の集計基準は、各大学・短期大学の学部・学科の回答としての代表性が損なわれないよう設定したものである。そのため、全体・設置者別・学年別の回答状況については学生から得られた全ての回答を集計に含めることとした。一方で、学部規模別・学部分野別の回答状況については、集計基準に合致した学部・学科の回答のみを集計している。(全体の回答状況以外のデータについては別添の資料編に示す。)

<大学設置者※別の回答状況>

区分	対象大学数	対象学部数	対象学生数	有効回答者数	有効回答率
国立	72大学	443学部	181,762人	28,023人	15.4%
公立	80大学	203学部	60,232人	8,506人	14.1%
私立	430大学	1,471学部	707,488人	75,812人	10.7%

※人数については、学部2年生と最終学年の在籍者数の合計

<大学規模※別の回答状況>

大学規模	対象大学数	対象学生数	有効回答者数	有効回答率
2,000人以上	158大学	647,354人	65,488人	10.1%
2,000人未満 1,000人以上	109大学	154,388人	20,763人	13.4%
1,000人未満 500人以上	131大学	93,083人	15,593人	16.8%
500人未満	184大学	54,657人	10,497人	19.2%

※人数については、学部2年生と最終学年の在籍者数の合計

<大学学部規模※別の回答状況>

学部規模	対象学部数	対象学生数	有効回答者数	有効回答率
800人以上	288学部	353,971人	30,967人	8.7%
800人未満 400人以上	604学部	341,774人	40,331人	11.8%
400人未満	1,225学部	253,737人	41,043人	16.2%

※人数については、学部2年生と最終学年の在籍者数の合計

＜有効回答率別の大学数・学部数＞

有効回答率	対象大学数
80%以上	5大学
60%以上80%未満	8大学
40%以上60%未満	22大学
20%以上40%未満	118大学
20%未満	429大学

有効回答率	対象学部数
80%以上	20学部
60%以上80%未満	27学部
40%以上60%未満	66学部
20%以上40%未満	376学部
20%未満	1628学部

<短期大学設置者※別の回答状況>

区分	対象大学数	対象学科数	対象学生数	有効回答者数	有効回答率
国立	—	—	—	—	—
公立	9大学	25学部	1,931人	438人	22.7%
私立	148大学	279学部	23,502人	6,593人	28.1%

※人数については、最終学年の在籍者数の合計

<短期大学規模※別の回答状況>

短大規模	対象校数	対象学生数	有効回答者数	有効回答率
400人以上	6校	3,265人	974人	29.8%
400人未満 200人以上	42校	10,483人	2,250人	21.5%
200人未満 100人以上	62校	8,618人	2,758人	32.0%
100人未満	47校	3,067人	1,049人	34.2%

※人数については、最終学年の在籍者数の合計

※短期大学においては、規模が小さく、有効回答者数が少ないことから、短期大学規模別のみ作成した。

<有効回答率別の短期大学数>

有効回答率	対象校数
80%以上	15校
60%以上80%未満	9校
40%以上60%未満	18校
20%以上40%未満	32校
20%未満	83校

＜各質問項目の回答選択割合＞

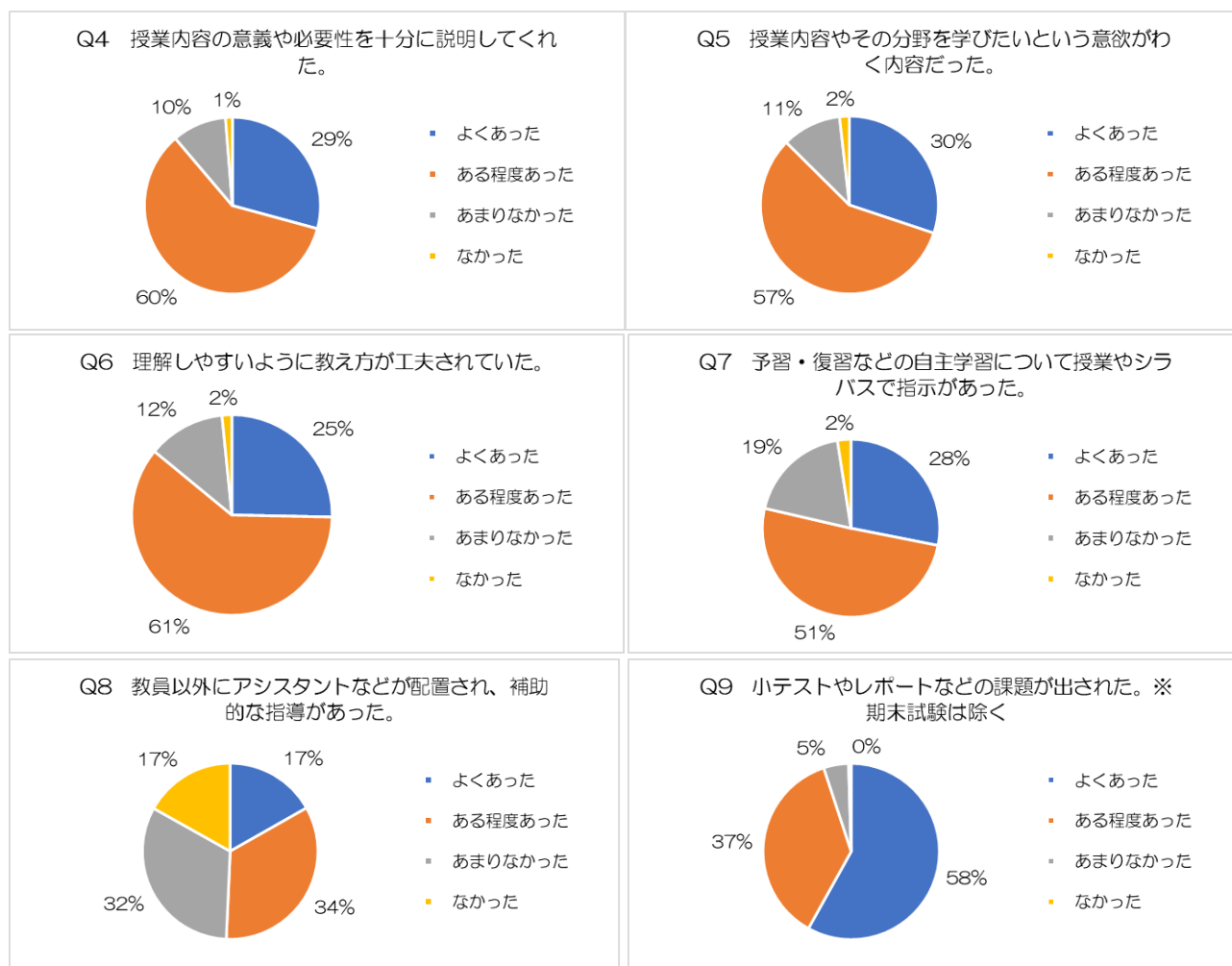
（注１）回答選択の実数については、別添「令和３年度「全国学生調査（第２回試行実施）」結果【資料編】」（以下、本資料において「別添資料編」と記載）参照

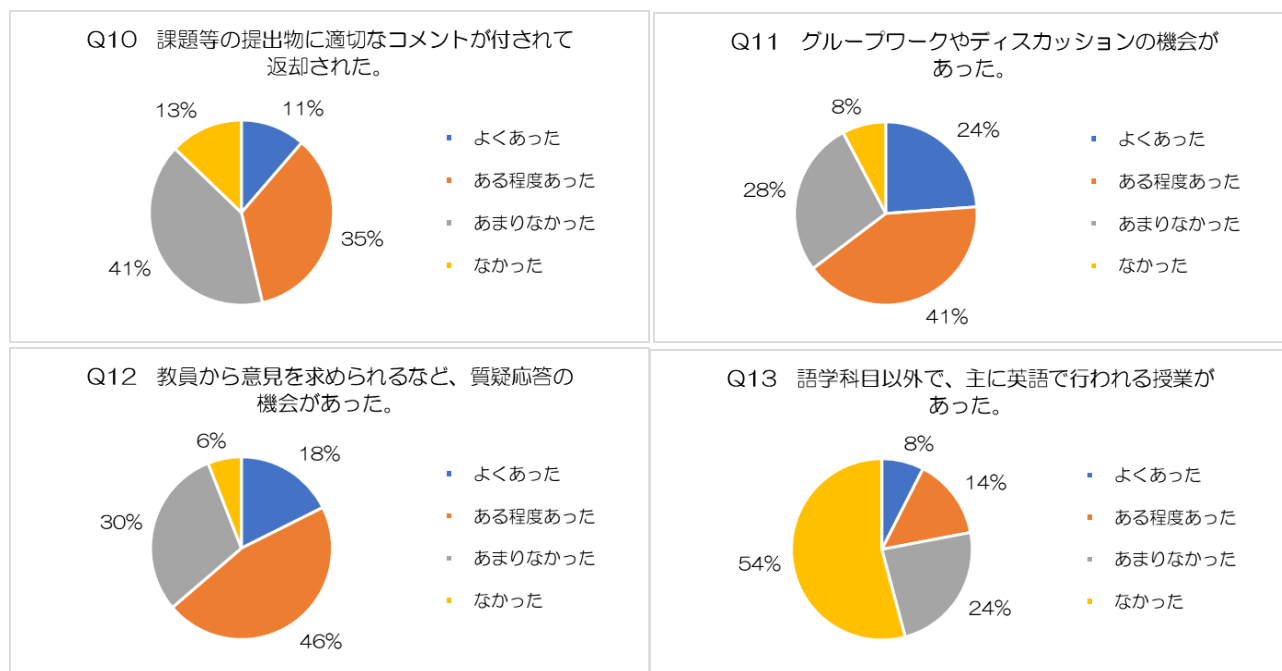
（注２）各回答の割合は、小数点第三位で四捨五入した上でパーセント表示しており、複数の回答の割合を合算した数値は、各回答のパーセント表示の和とかならずしも一致しない。

【大学】

問１ 大学に入ってから受けた授業では、次の項目はどれくらいありましたか。

授業内容の意義や必要性の説明（89%）、小テストやレポートなどの課題が出された（95%）等については、「よくあった」、「ある程度あった」という割合が高かった。
適切なコメントが付されて提出物が返却された（46%）、主に英語で行われる授業（22%）については割合が低かった。

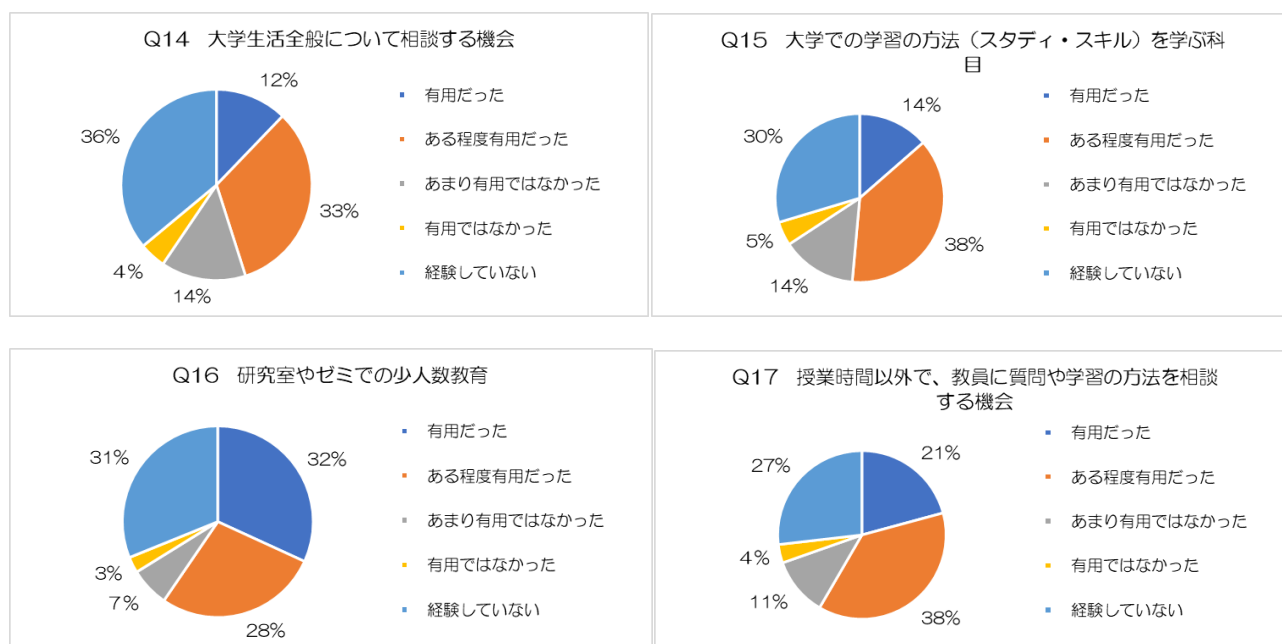




問2 大学に入ってから次のような経験はありましたか。また、その経験は有用でしたか。

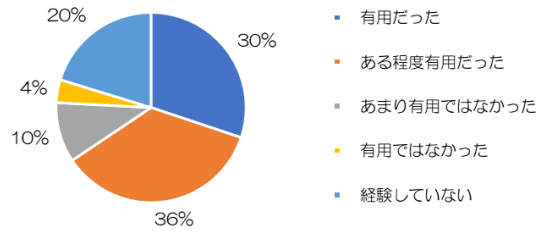
研究室やゼミでの少人数教育（60%）、図書館等を活用した学習（68%）等については、「有用だった」、「ある程度有用だった」という割合が高かった。

5日以上インターンシップ（84%）や、3か月以上の海外留学（95%）、オンライン留学（91%）等の海外留学・海外研修に関する項目で、「経験していない」という割合が高かった。¹

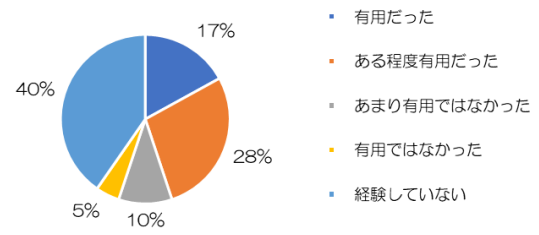


¹ インターンシップや海外留学・海外研修、学内で自分と異なる文化圏の学生と交流する機会等について「経験していない」とする回答の割合が高いことについては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大等も背景にあるものと考えられる。

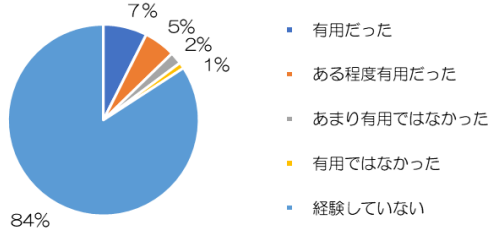
Q18 授業時間以外で、他の学生と一緒に学習する機会



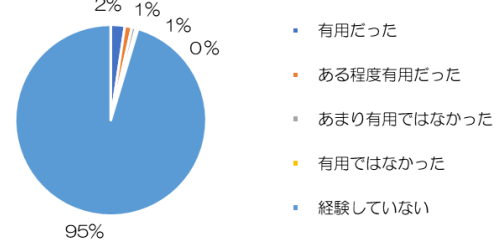
Q19 キャリアに関する科目、キャリアカウンセリング（就職・進学相談）



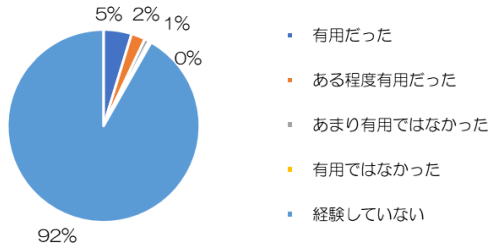
Q20 5日間以上のインターンシップ



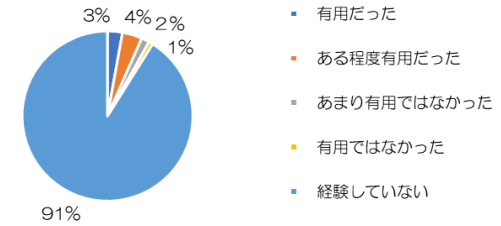
Q21 3か月以上の海外留学・海外研修



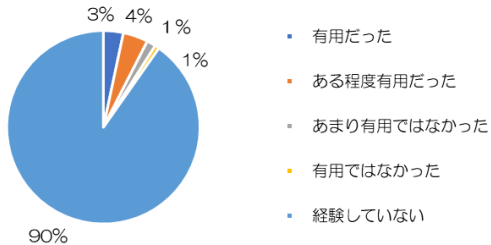
Q22 3か月未満の海外留学・海外研修



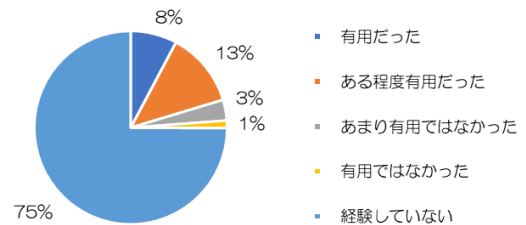
Q23 海外の大学等が提供するオンライン授業（オンライン留学）



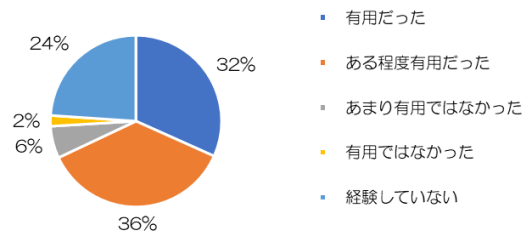
Q24 オンラインで海外の大学等の学生と交流する機会



Q25 学内で自分と異なる文化圏の学生と交流する機会

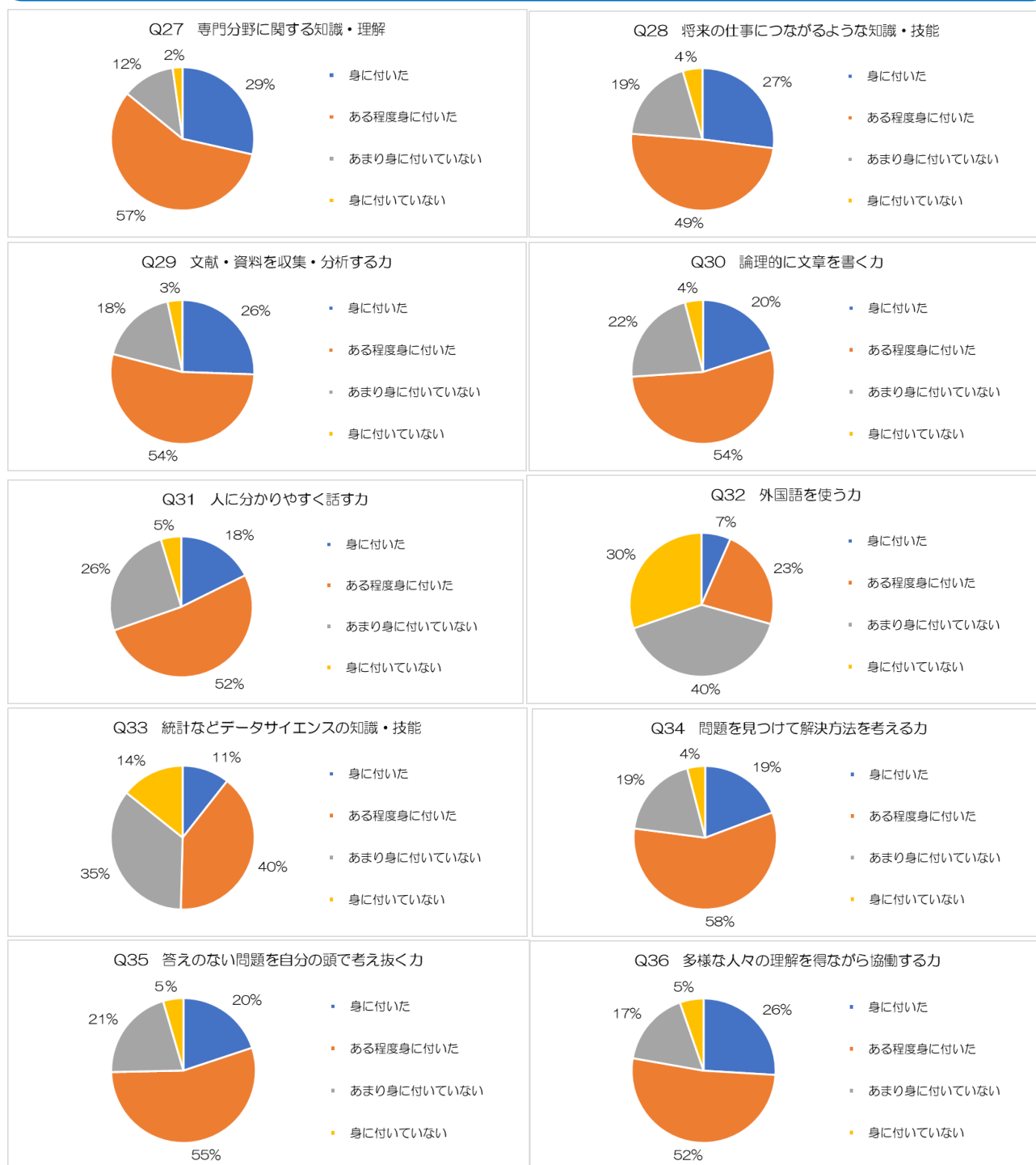


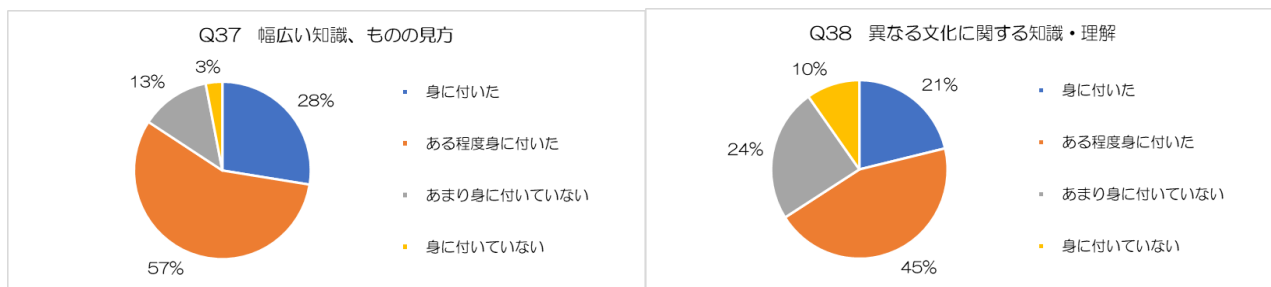
Q26 図書館やアクティブ・ラーニングスペースなど大学施設を活用した学習



問3 大学教育を通じて、次のような知識や能力が身に付いたと思いますか。

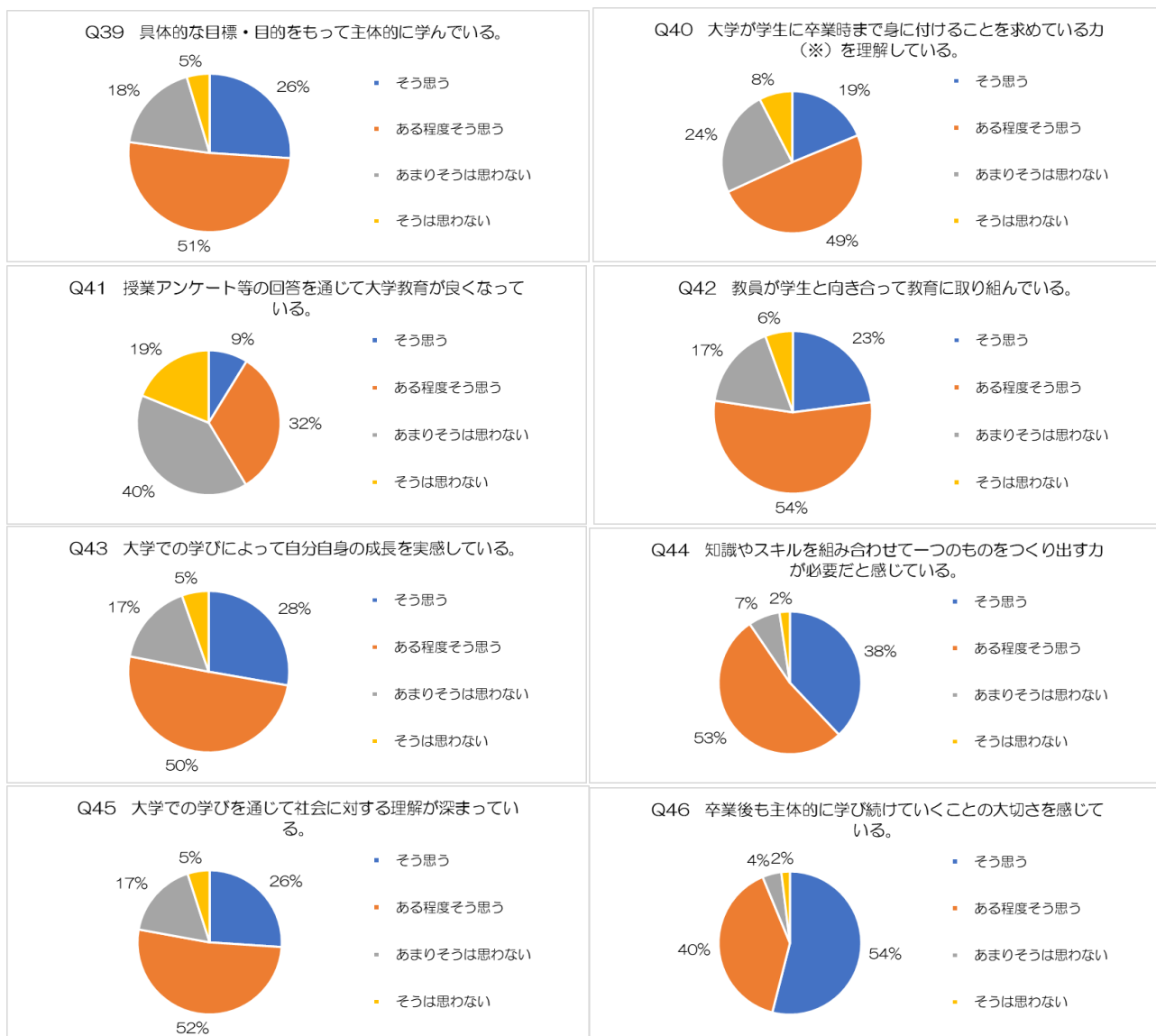
専門分野に関する知識・理解（86%）、幅広い知識、ものの見方（84%）、文献・資料を収集・分析する力（79%）等について、「身に付いた」、「ある程度身に付いた」という割合が高かったが、外国語を使う力（29%）については割合が低かった。





問4 これまでの大学での学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思いますか。

知識やスキルを組み合わせ一つのものを作り出す力が必要（90%）、卒業後も主体的に学び続けていくことが大切（94%）等について、「そう思う」、「ある程度そう思う」という割合が高かったが、授業アンケート等の回答を通じて大学教育がよくなっている（41%）については割合が低かった。

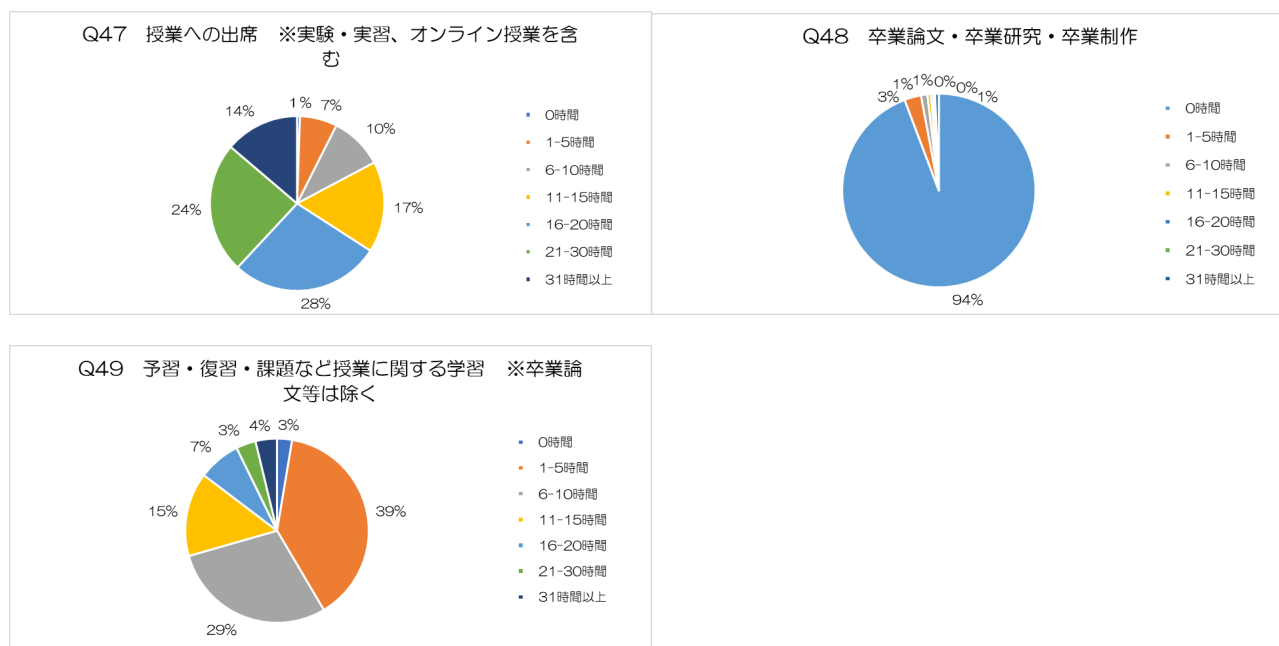


※ディプロマ・ポリシーに示された知識・能力

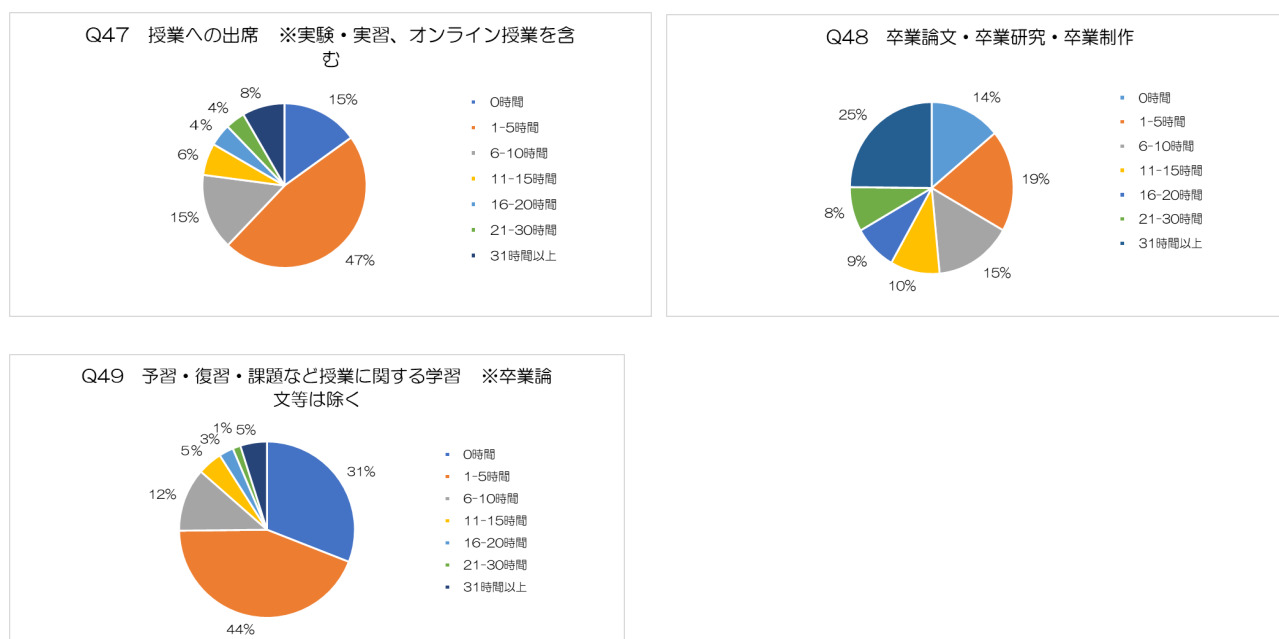
問5 今年度後期の授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間はそれぞれどのくらいですか。

授業への出席は2年生で16時間以上が66%、4年生以上で5時間以下が62%。卒業論文等は4年生以上で16時間以上が42%。授業に関する学習は2年生で5時間以下が41%、4年生以上で75%。²部活動／サークル活動は0時間が69%。アルバイト等は11時間以上が42%。趣味・交友等は5時間以下が30%。スマートフォンの使用は11時間以上が54%。

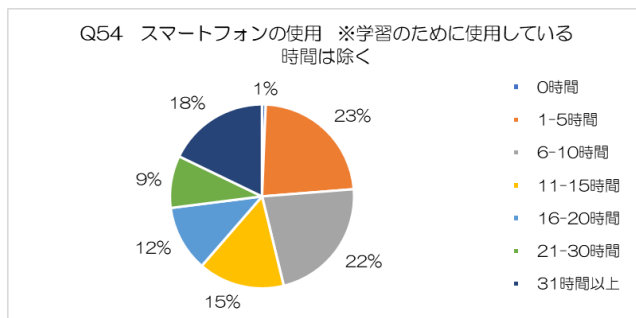
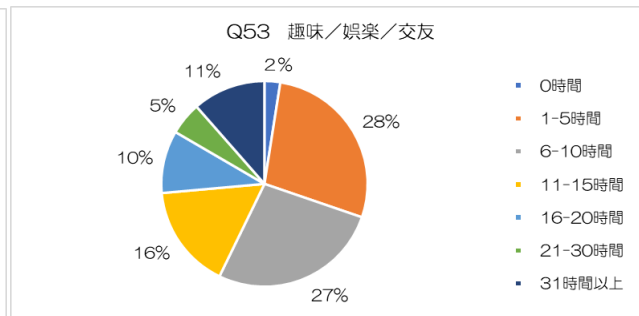
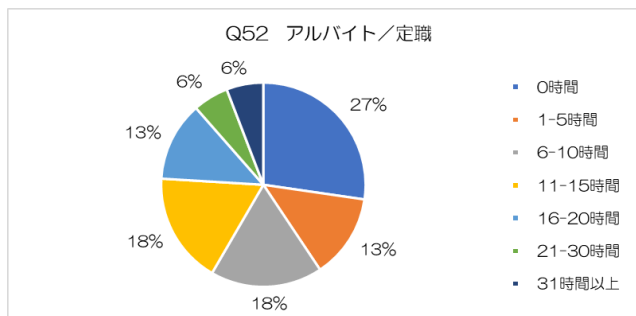
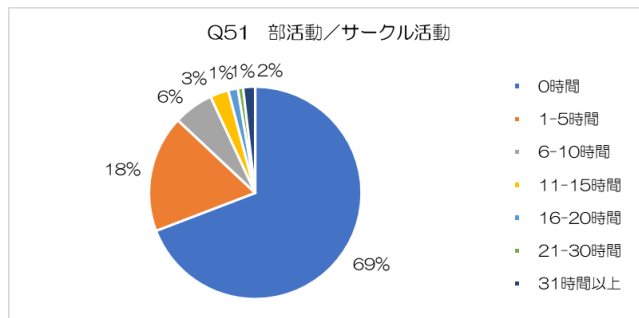
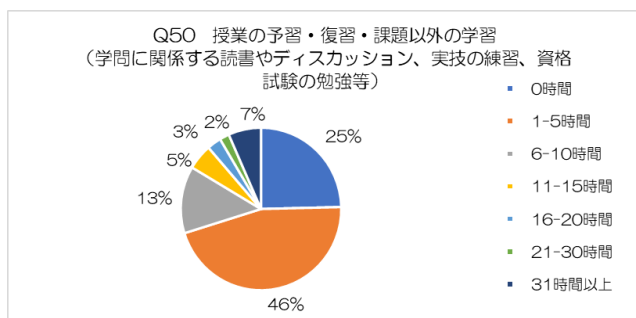
◆2年生（Q47、Q48、Q49について）



◆4年生以上（Q47、Q48、Q49について）

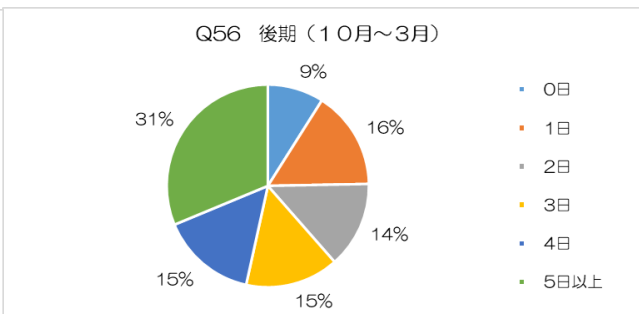
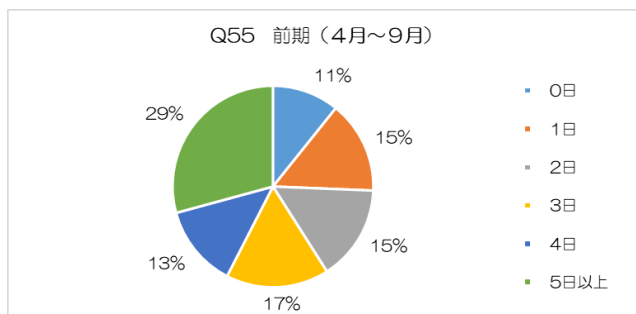


² Q47「授業への出席」、Q48「卒業論文・卒業研究・卒業制作」Q49「予習・復習・課題など授業に関する学習 ※卒業論文等は除く」については、調査について質問した自由記述欄において「4年生であるため、授業はゼミのみであった」といった回答や、「2年生なので卒論に関わることはしていない」といった回答が多くみられたことから、学年別のデータを掲載している。（その他の学年別データは別添資料編に掲載）



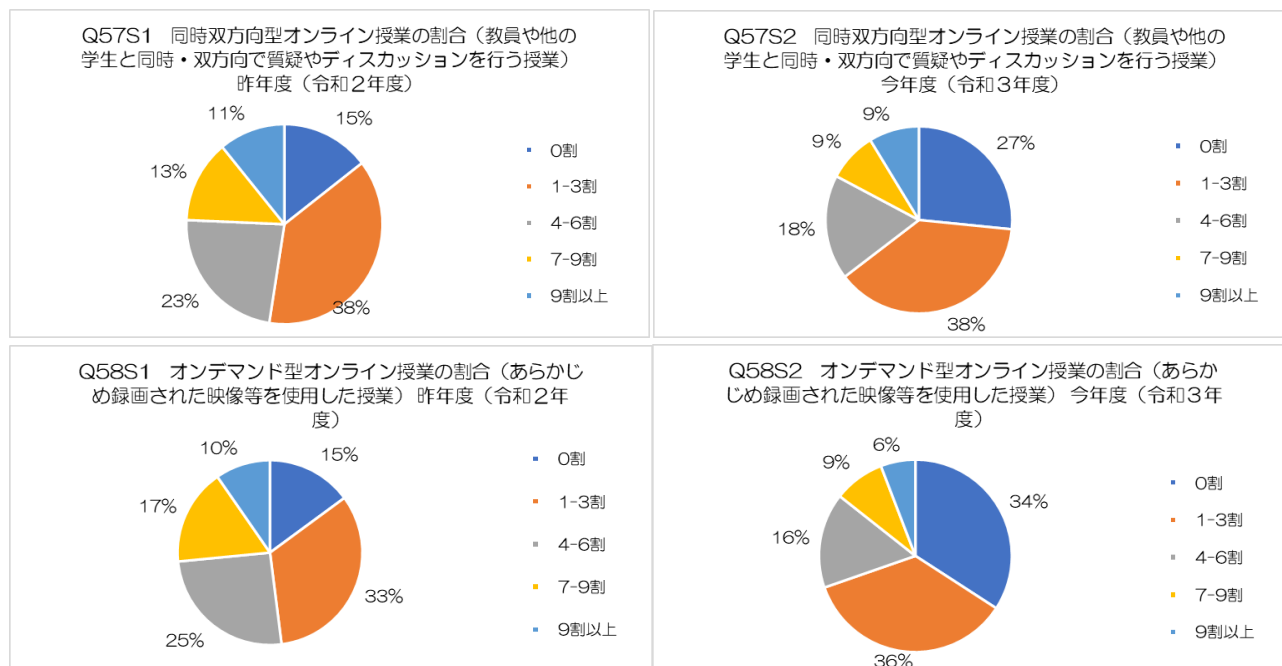
問6 令和3年度の授業期間中にキャンパスへ通った日数は、1週間でそれぞれ何日くらいですか。

前期では0日が11%、1～2日が30%、3日以上が59%であった。後期では0日が9%、1～2日が30%、3日以上が61%であった。



問7 令和2年度と令和3年度に受けた授業のうち、同時双方向型オンライン授業／オンデマンド型オンライン授業の割合はそれぞれどのくらいですか。

同時双方向型オンライン授業については、令和2年度においては4割以上が48%だったが、令和3年度においては35%であった。オンデマンド型オンライン授業については、令和2年度においては4割以上が52%だったが、令和3年度においては30%であった。³

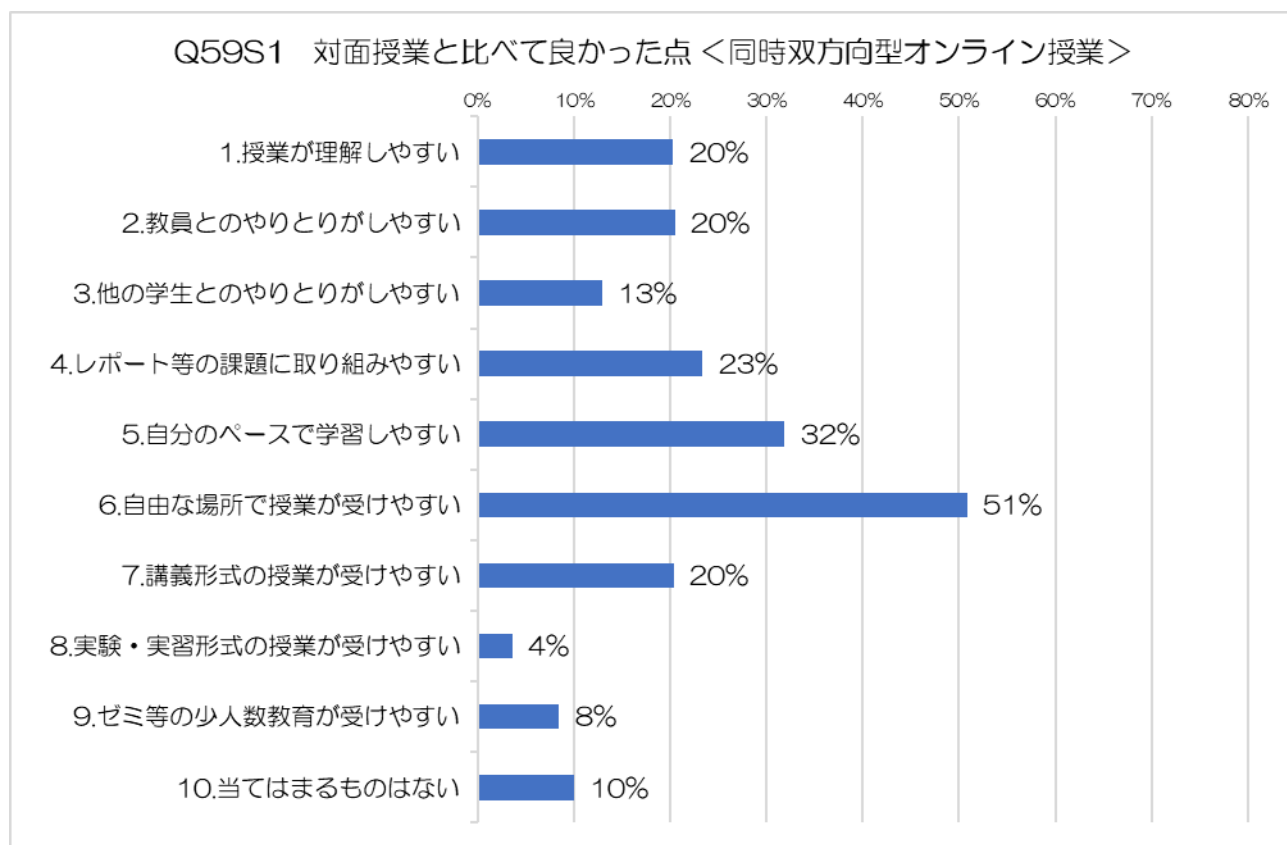


³ 本調査では、同時双方向型オンライン授業、オンデマンド型オンライン授業のそれぞれの割合について別個の間で質問しており、学生が受講したオンライン授業全体（同時双方向型とオンデマンド型の合計）の割合や対面授業の割合については本調査では示されていない（短期大学についても同じ）。

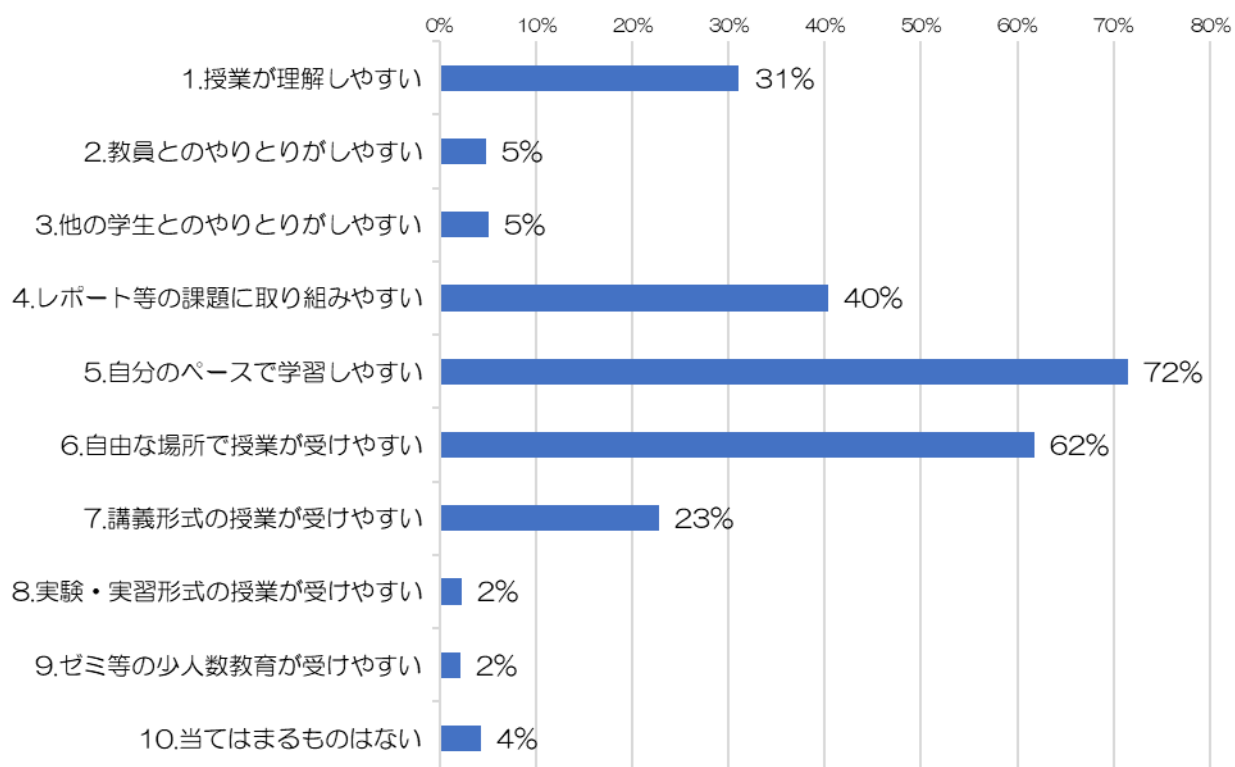
問8 これまでに受けたオンライン授業（同時双方向型／オンデマンド型）の、対面授業と比べて良かった点・悪かった点について、当てはまるものを全て選択してください。＜複数選択＞

対面授業と比べて良かった点について、同時双方向型については「自由な場所で授業が受けやすい」が最も多く、次いで「自分のペースで学習しやすい」「レポート等の課題に取り組みやすい」等の回答が多かった。オンデマンド型では「自分のペースで学習しやすい」、「自由な場所で授業が受けやすい」、「レポート等の課題に取り組みやすい」の順で回答が多かった。

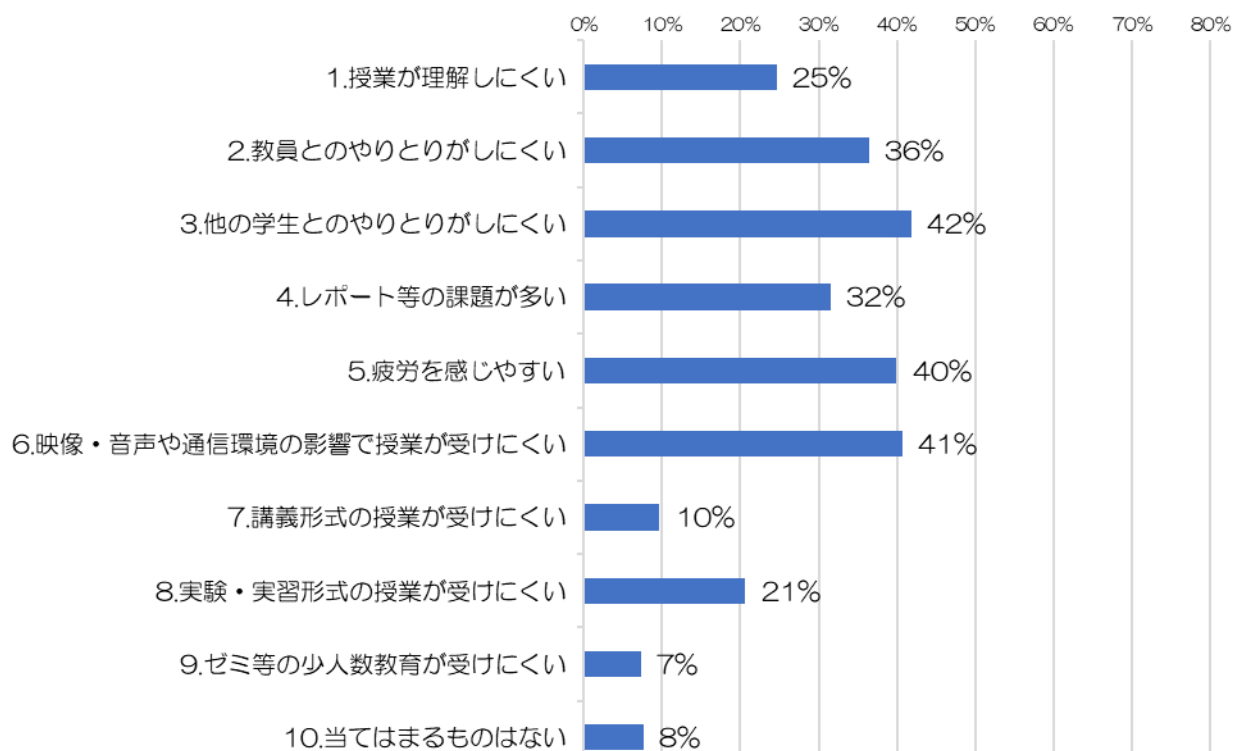
対面授業と比べて良くなかった点については、同時双方向型については「他の学生とのやりとりがしにくい」、「映像・音声や通信環境の影響で授業が受けにくい」、「疲労を感じやすい」等の回答が多く、オンデマンド型では「教員とのやりとりがしにくい」、「他の学生とのやりとりがしにくい」、「レポート等の課題が多い」の順で回答が多かった。



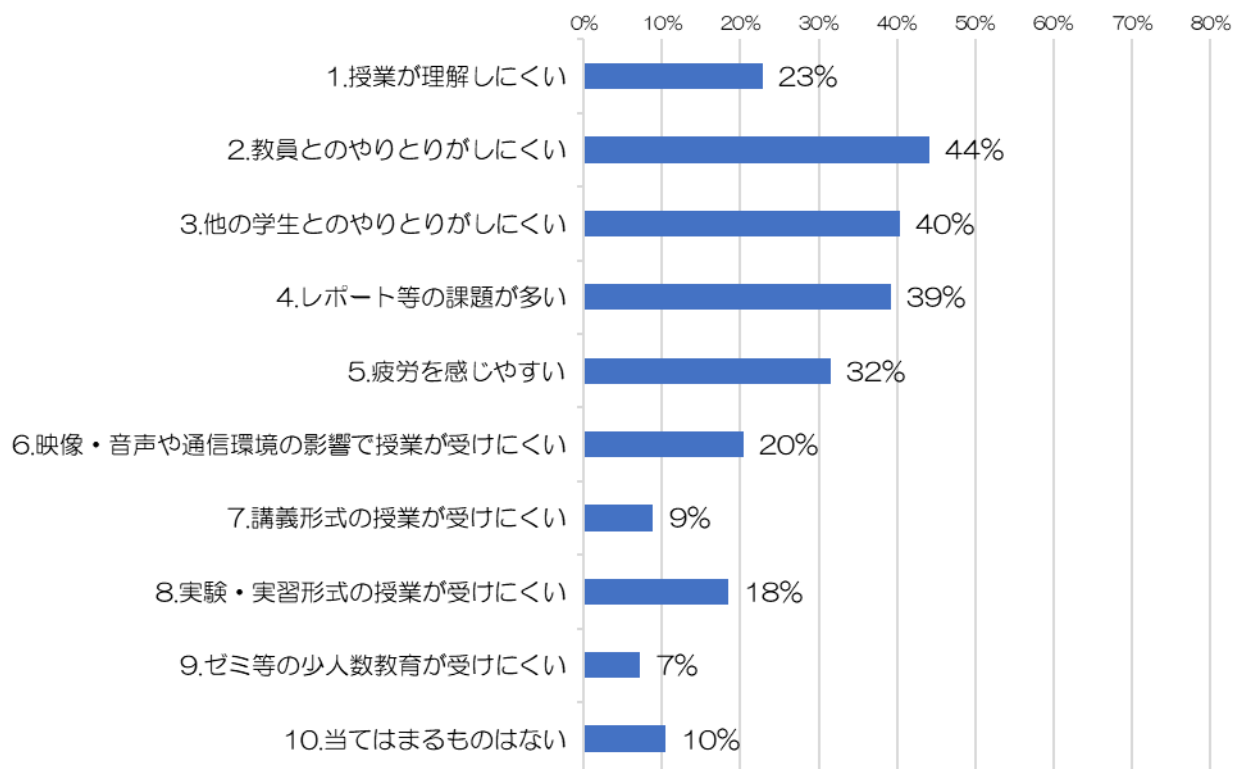
Q59S2 対面授業と比べて良かった点 <オンデマンド型オンライン授業>



Q60S1 対面授業と比べて良くなかった点 <同時双方向型オンライン授業>



Q60S2 対面授業と比べて良くなかった点 <オンデマンド型オンライン授業>

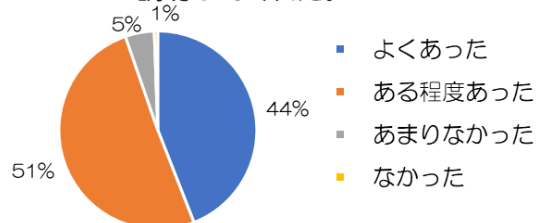


【短期大学】

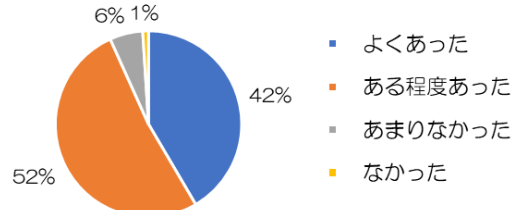
問１ 大学に入ってから受けた授業では、次の項目はどれくらいありましたか。

授業内容の意義や必要性の説明（95%）、小テストやレポートなどの課題が出された（92%）等については、「よくあった」、「ある程度あった」という割合が高かったが、主に英語で行われる授業（25%）については割合が低かった。

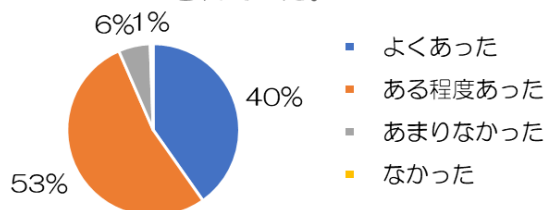
Q4 授業内容の意義や必要性を十分に説明してくれた。



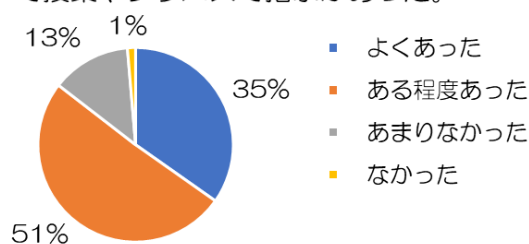
Q5 授業内容やその分野を学びたいという意欲がわく内容だった。



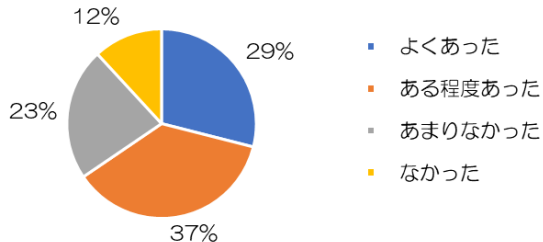
Q6 理解しやすいように教え方が工夫されていた。



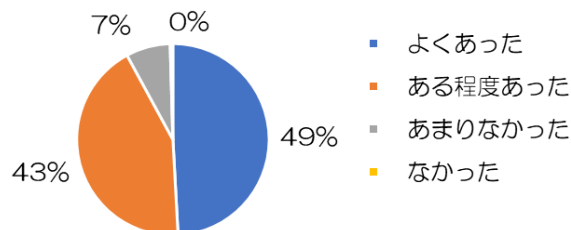
Q7 予習・復習などの自主学習について授業やシラバスで指示があった。



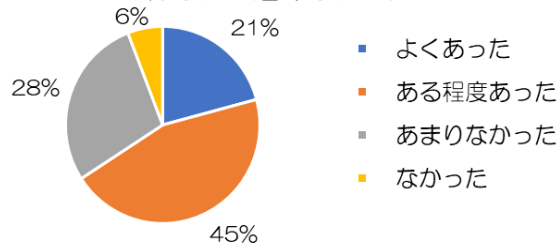
Q8 教員以外にアシスタントなどが配置され、補助的な指導があった。



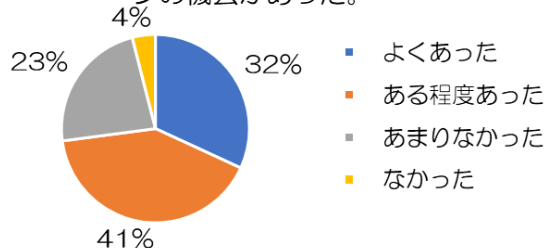
Q9 小テストやレポートなどの課題が出された。※期末試験は除く

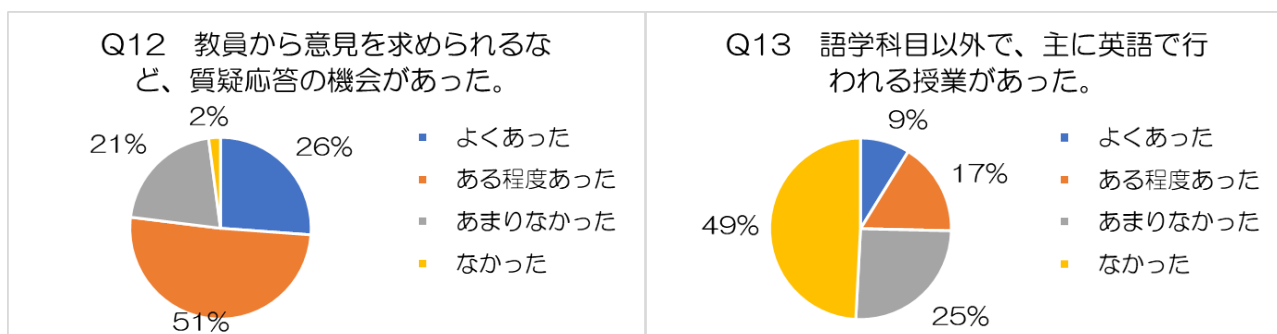


Q10 課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却された。



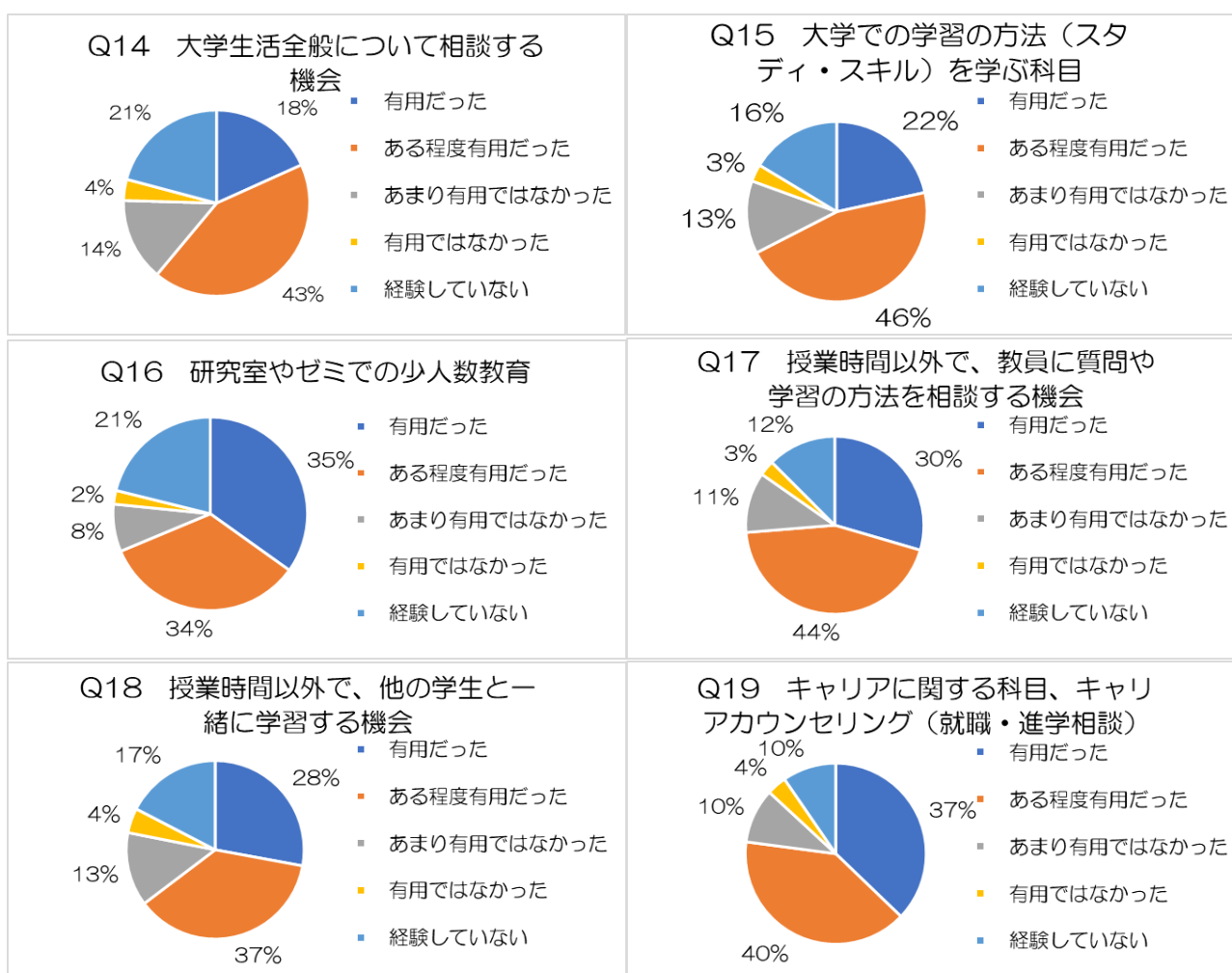
Q11 グループワークやディスカッションの機会があった。





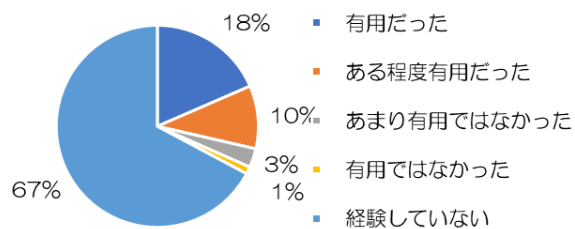
問2 大学に入ってから次のような経験はありましたか。また、その経験は有用でしたか。

就職・進学相談（77%）、授業時間外の教員への質問・学習方法相談（74%）、研究室やゼミでの少人数教育（69%）等については、「有用だった」、「ある程度有用だった」という割合が高かったが、3か月以上の海外留学（96%）、オンライン留学（93%）等の海外留学・海外研修に関する項目で「経験していない」という割合が高かった。⁴

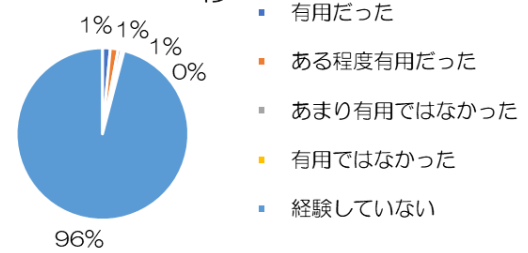


⁴ 海外留学・海外研修を「経験していない」とする回答の割合が高いことについては、大学と同様に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大等も背景にあるものと考えられる。

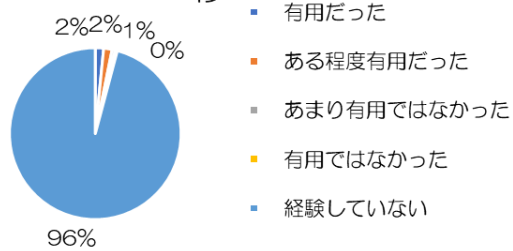
Q20 5日間以上のインターンシップ



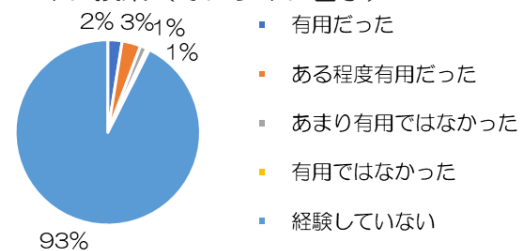
Q21 3か月以上の海外留学・海外研修



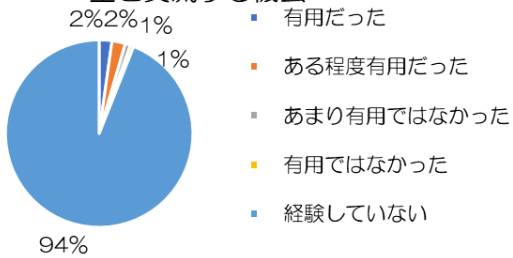
Q22 3か月未満の海外留学・海外研修



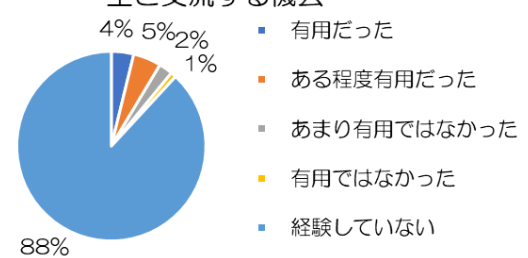
Q23 海外の大学等が提供するオンライン授業（オンライン留学）



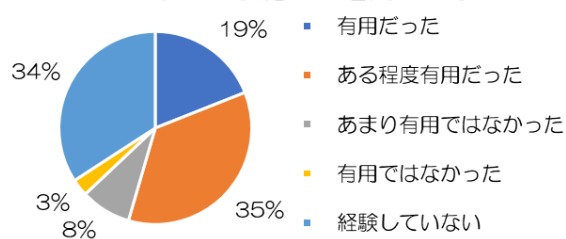
Q24 オンラインで海外の大学等の学生と交流する機会



Q25 学内で自分と異なる文化圏の学生と交流する機会

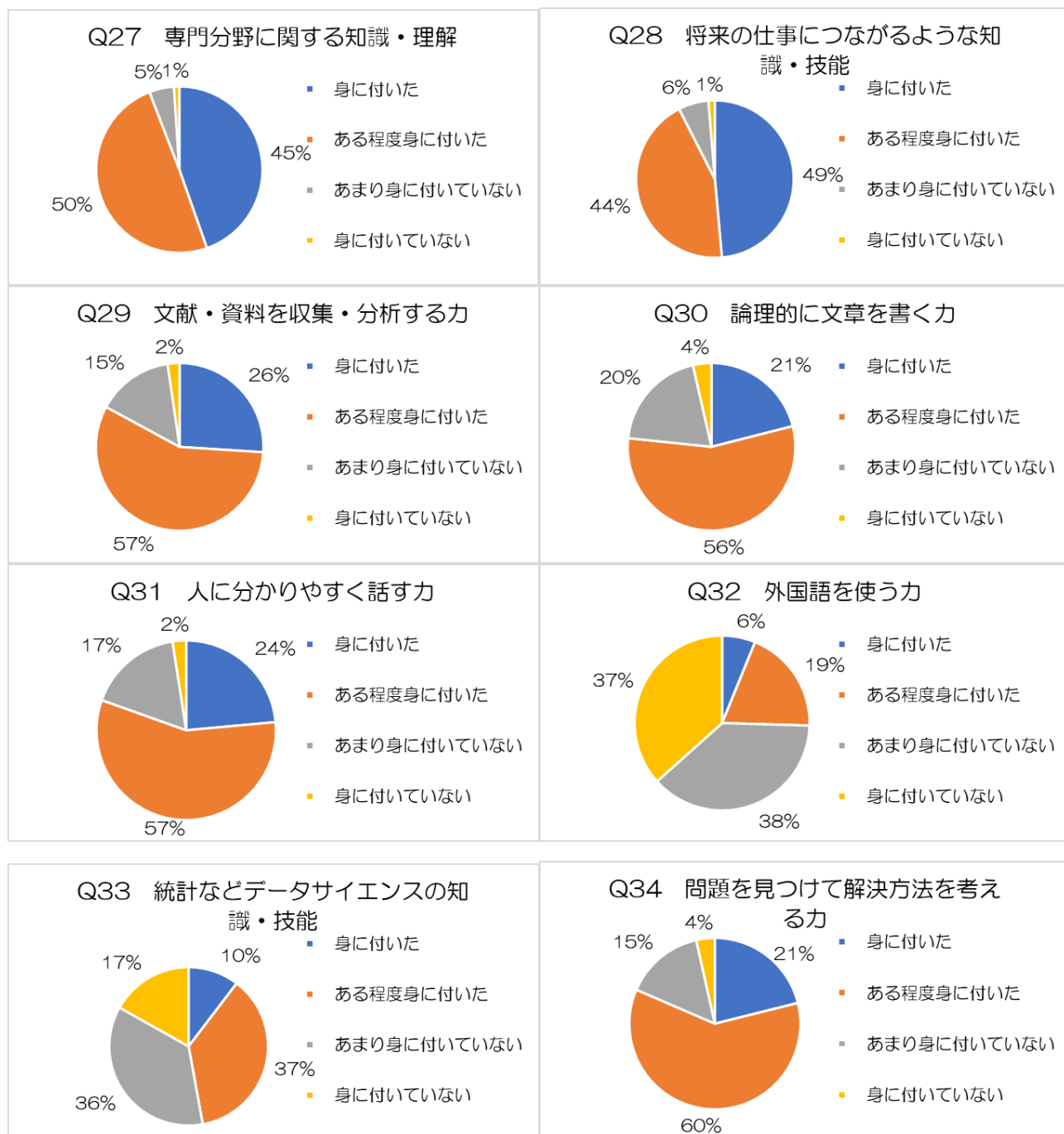


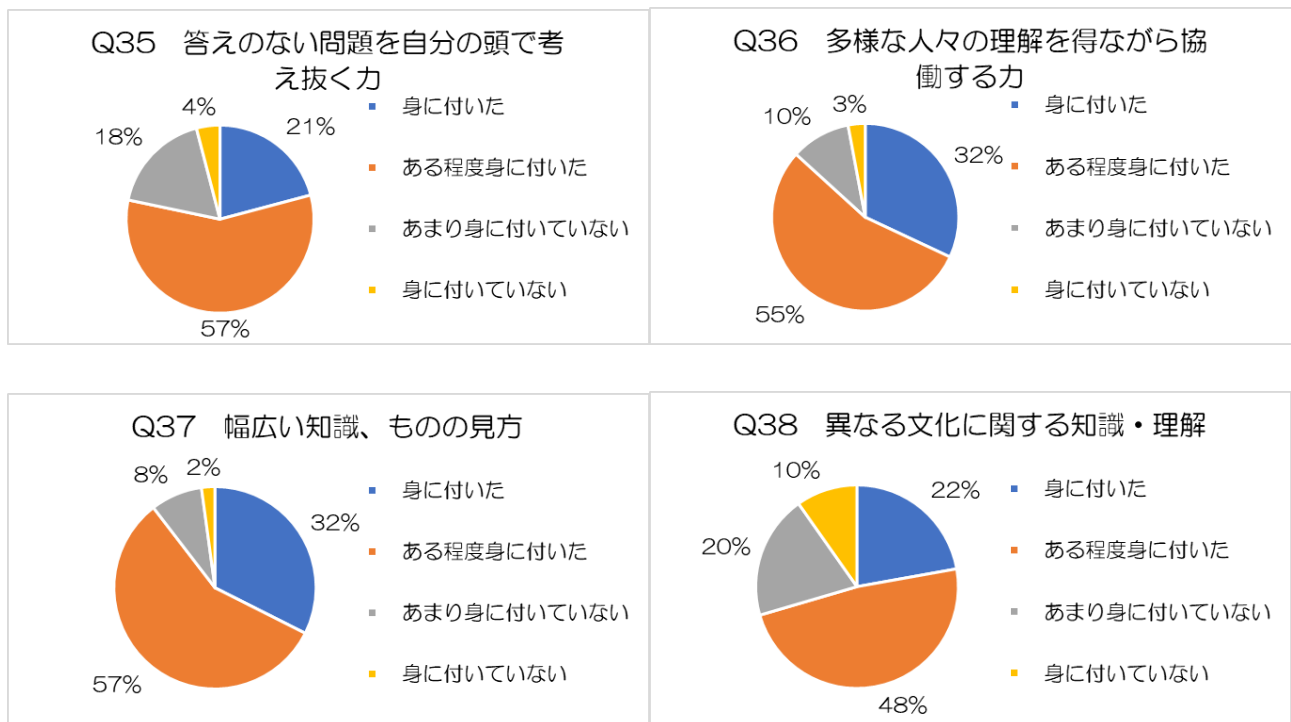
Q26 図書館やアクティブ・ラーニングスペースなど大学施設を活用した学習



問3 大学教育を通じて、次のような知識や能力が身に付いたと思いますか。

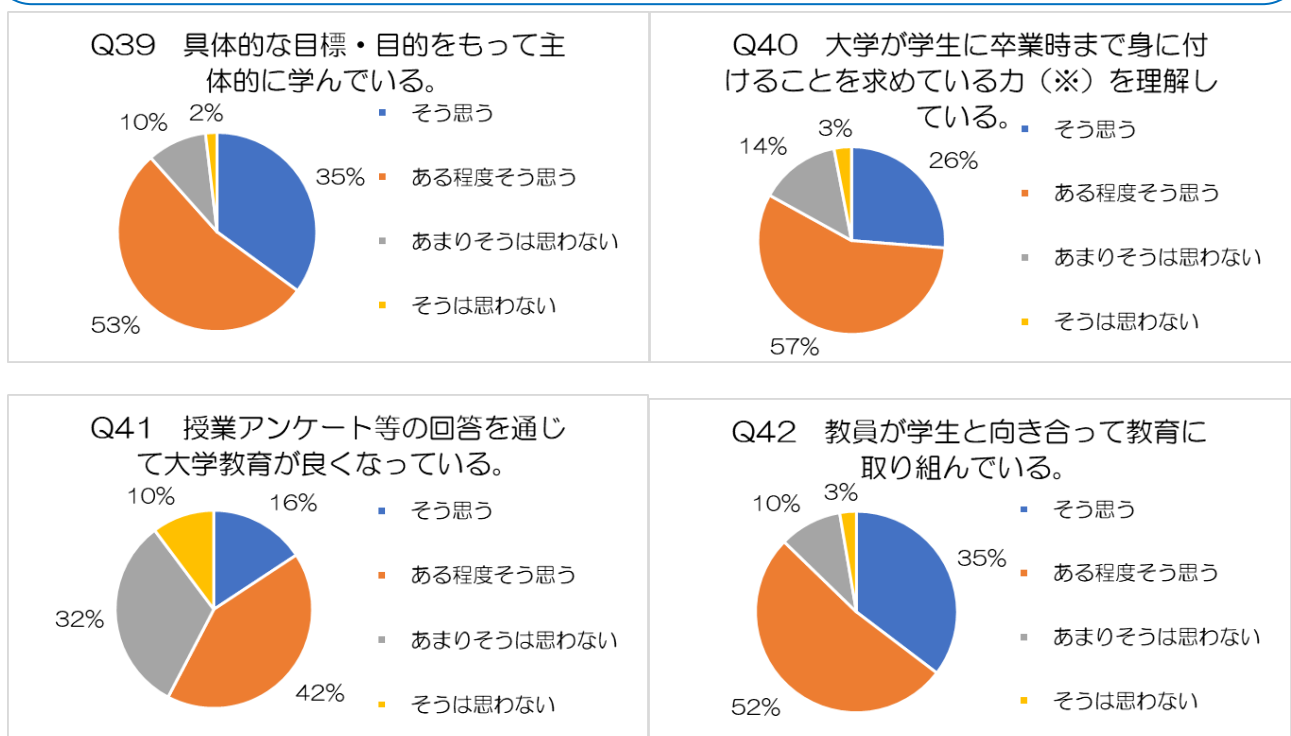
専門分野に関する知識・理解（94%）、将来の仕事につながるような知識・技能（93%）等については、「身に付いた」、「ある程度身に付いた」という割合が高かったが、外国語を使う力（25%）については割合が低かった。





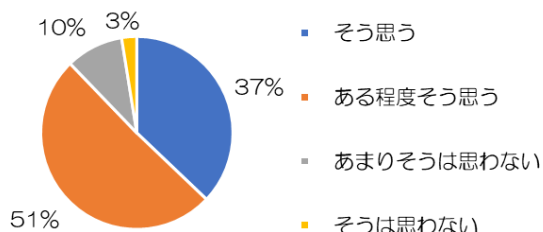
問4 これまでの大学での学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思いますか。

大学での学びによって自分自身の成長を実感している（88%）、知識やスキルを組み合わせ一つのものを作り出す力が必要（93%）、卒業後も主体的に学び続けていくことが大切（95%）等については、「そう思う」、「ある程度そう思う」という割合が高かったが、授業アンケート等の回答を通じて大学教育がよくなっている（58%）については他の項目と比較して割合が低かった。

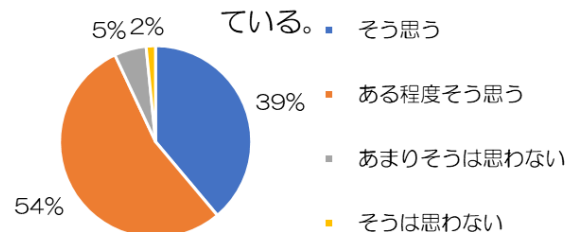


※ディプロマ・ポリシーに示された知識・能力

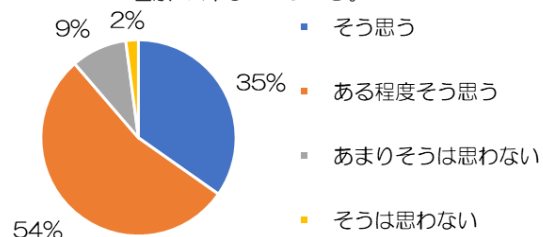
Q43 大学での学びによって自分自身の成長を実感している。



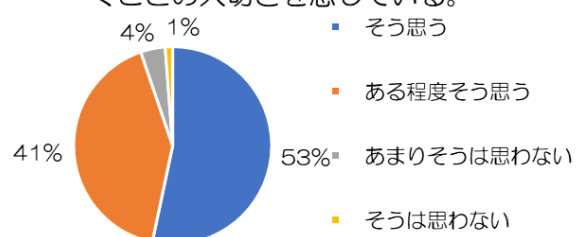
Q44 知識やスキルを組み合わせる一つのものをつくり出す力が不可欠だと感じている。



Q45 大学での学びを通じて社会に対する理解が深まっている。



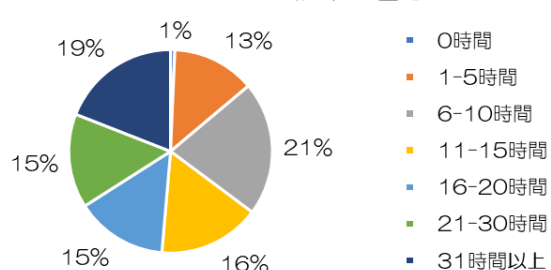
Q46 卒業後も主体的に学び続けることの大切さを感じている。



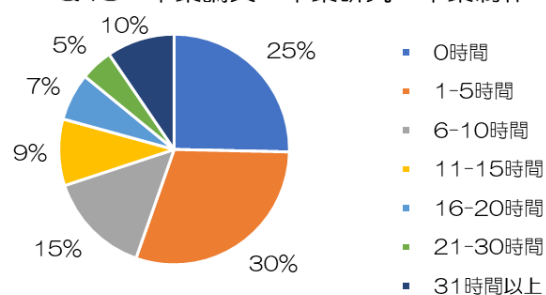
問5 今年度後期の授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間はそれぞれどのくらいですか。

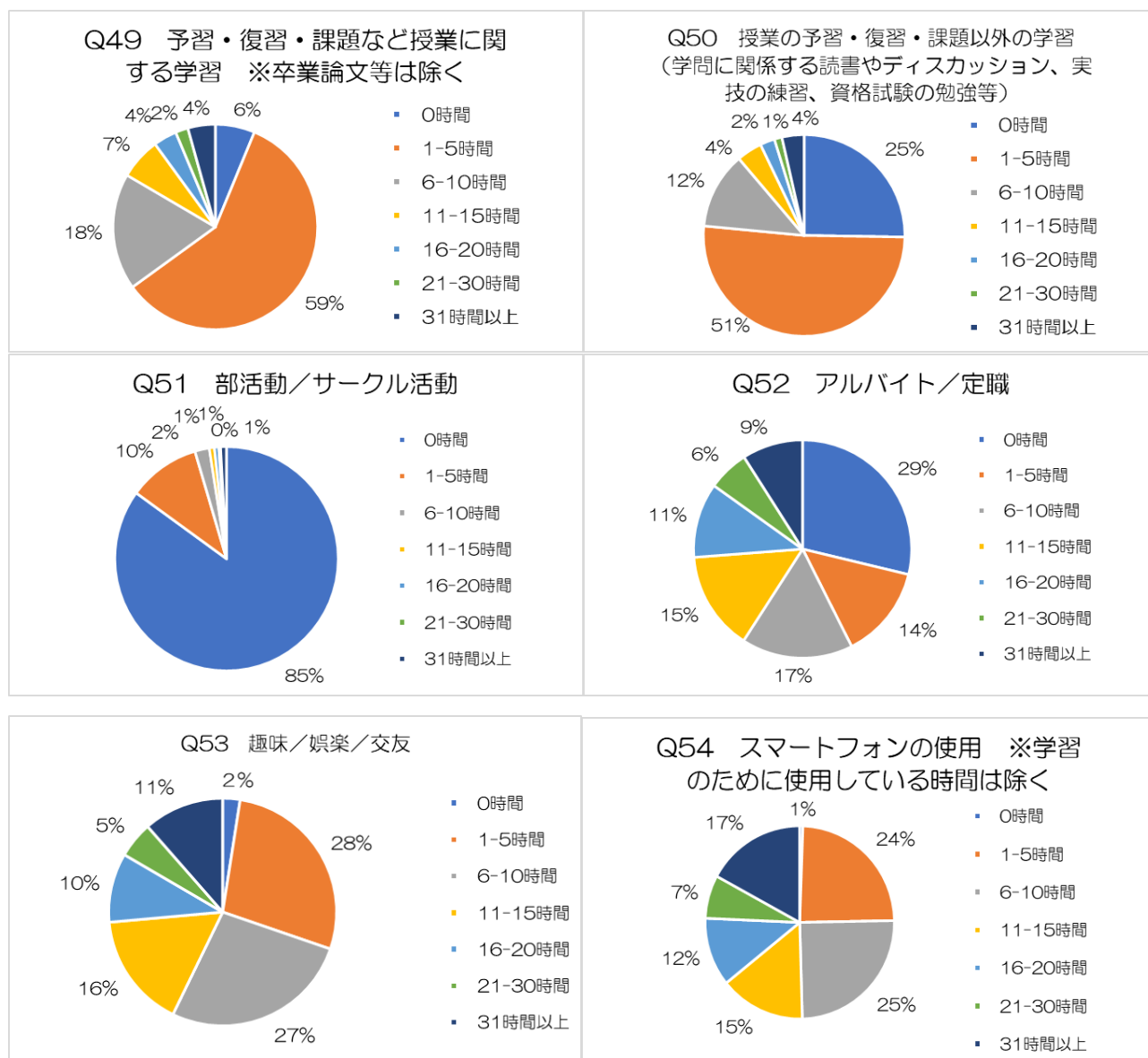
授業への出席は16時間以上が49%、5時間以下が14%。卒業論文等は16時間以上が21%。授業に関する学習は5時間以下が65%。授業以外の学習は5時間以下が77%。部活動／サークル活動は0時間が85%。アルバイト等は11時間以上が41%。趣味・交友等は11時間以上が38%。スマートフォンの使用は11時間以上が50%。

Q47 授業への出席 ※実験・実習、オンライン授業を含む



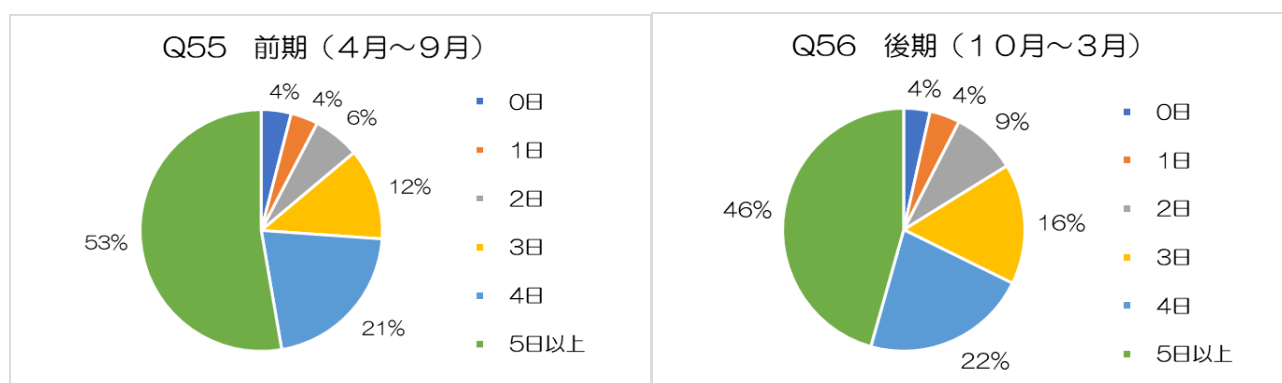
Q48 卒業論文・卒業研究・卒業制作





問6 令和3年度の授業期間中にキャンパスへ通った日数は、1週間でそれぞれ何日くらいですか。

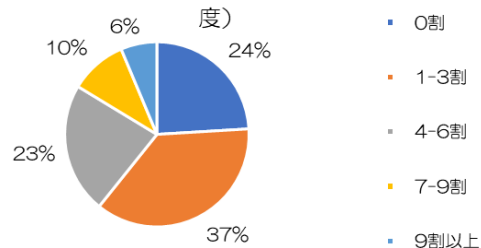
前期では0日が4%、1～2日が10%、3日以上が86%であった。後期では0日が4%、1～2日が13%、3日以上が84%であった。



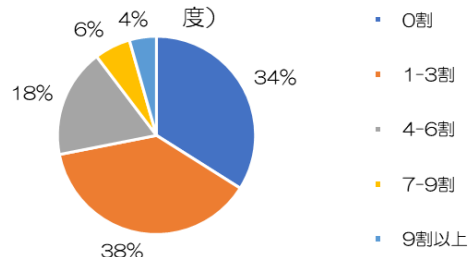
問7 令和2年度と令和3年度に受けた授業のうち、同時双方向型オンライン授業／オンデマンド型オンライン授業の割合はそれぞれどのくらいですか。

同時双方向型オンライン授業については、令和2年度においては4割以上は39%だったが、令和3年度においては28%であった。オンデマンド型オンライン授業については、令和2年度においては4割以上は36%だったが、令和3年度においては19%であった。

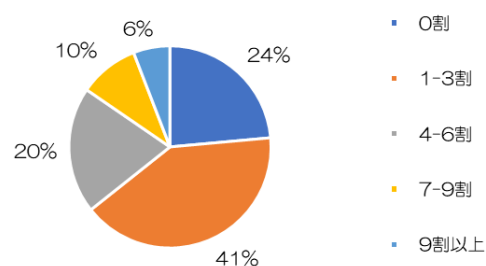
Q57S1 同時双方向型オンライン授業の割合
(教員や他の学生と同時・双方向で質疑やディスカッションを行う授業) 昨年度(令和2年度)



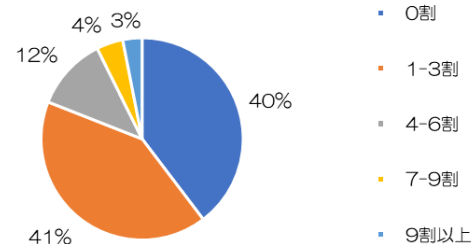
Q57S2 同時双方向型オンライン授業の割合
(教員や他の学生と同時・双方向で質疑やディスカッションを行う授業) 今年度(令和3年度)



Q58S1 オンデマンド型オンライン授業の割合
(あらかじめ録画された映像等を使用した授業) 昨年度(令和2年度)



Q58S2 オンデマンド型オンライン授業の割合
(あらかじめ録画された映像等を使用した授業) 今年度(令和3年度)

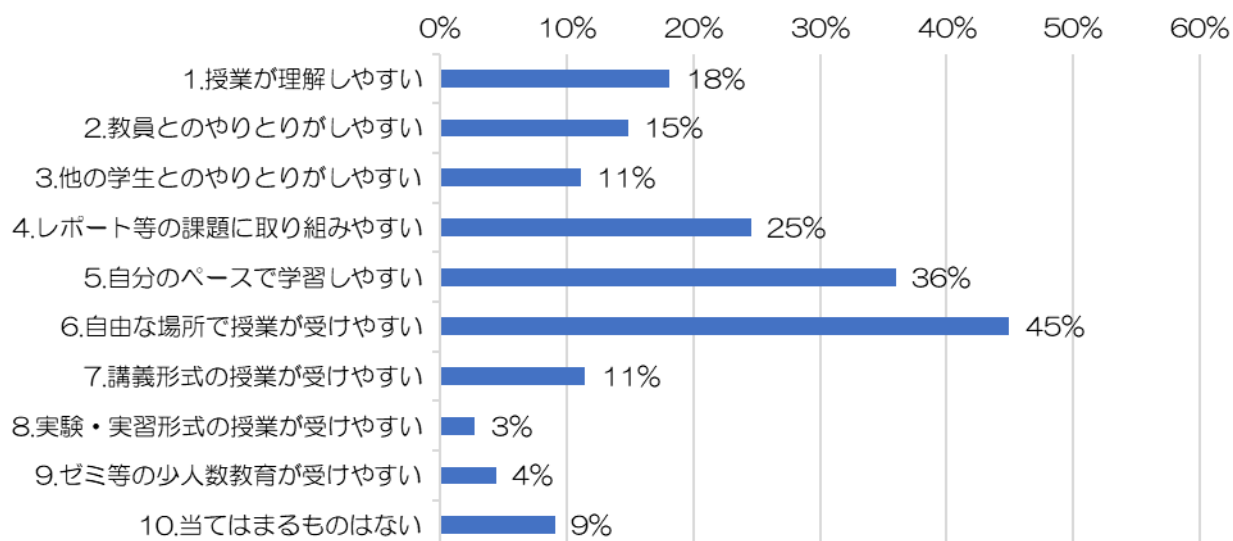


問8 これまでに受けたオンライン授業（同時双方向型／オンデマンド型）の、対面授業と比べて良かった点・悪かった点について、当てはまるものを全て選択してください。＜複数選択＞

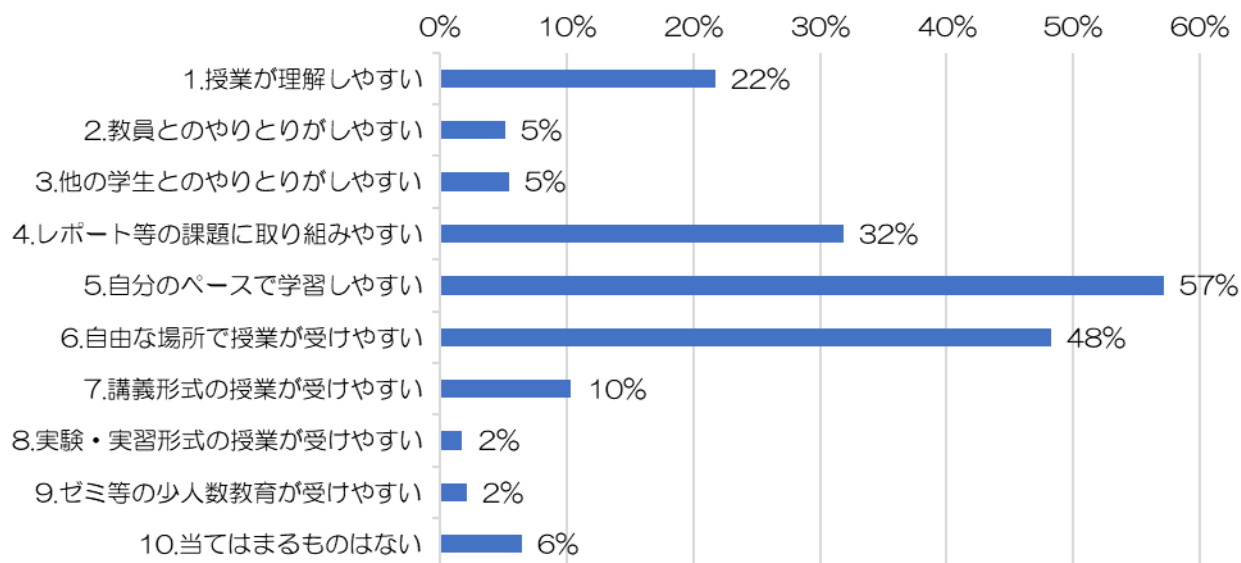
対面授業と比べて良かった点について、同時双方向型については「自由な場所で授業が受けやすい」が最も多く、次いで「自分のペースで学習しやすい」「レポート等の課題に取り組むやすい」等の回答が多かった。オンデマンド型では「自分のペースで学習しやすい」、「自由な場所で授業が受けやすい」の順で回答が多かった。

対面授業と比べて良くなかった点については、同時双方向型については「映像・音声や通信環境の影響で授業が受けにくい」、「教員とのやり取りがしにくい」、「他の学生とのやり取りがしにくい」、「疲労を感じやすい」等の回答が多く、オンデマンド型では「教員とのやり取りがしにくい」、「レポート等の課題が多い」、「他の学生とのやり取りがしにくい」、が多かった。

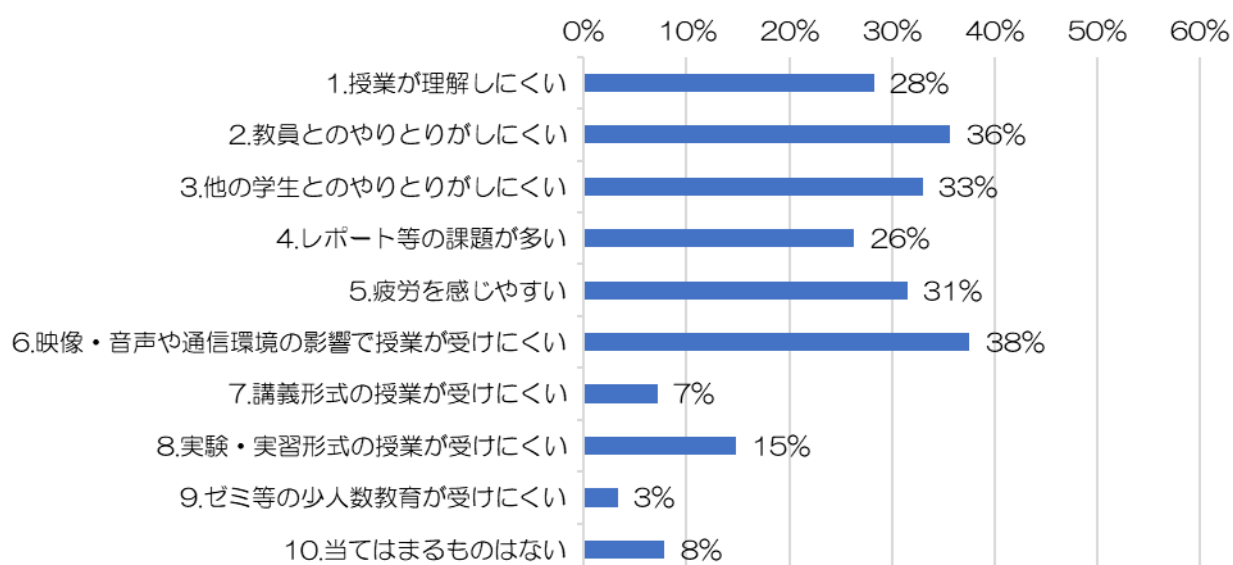
Q59S1 対面授業と比べて良かった点 ＜同時双方向型オンライン授業＞



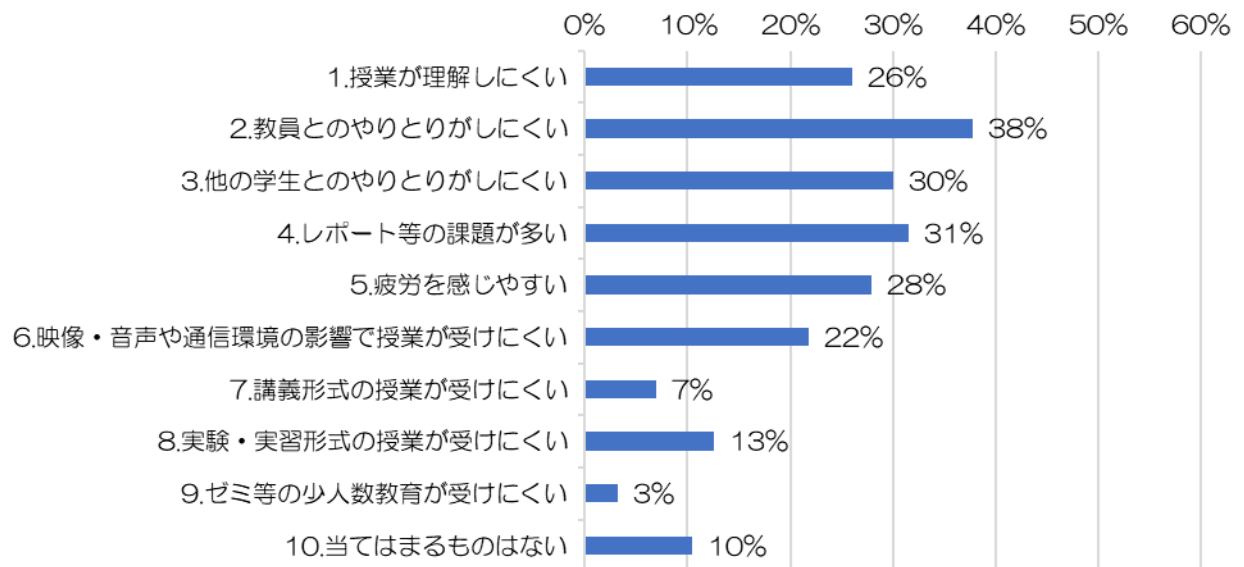
Q59S2 対面授業と比べて良かった点 <オンデマンド型 オンライン授業>



Q60S1 対面授業と比べて良くなかった点 <同時双方向 型オンライン授業>



Q6OS2 対面授業と比べて良くなかった点 <オンデマンド型オンライン授業>



さらに、各大学・短期大学における把握・分析に資するよう、以下（２）～（６）の集計を行った（別添資料編参照）。

（２）設置者別の回答状況

（３）学部等規模別の回答状況（集計基準合致学部）

（４）学部・学科分野別の回答状況（集計基準合致学部）

（５）学年別の回答状況（大学のみ）

（６）設置者別と学部等規模別の回答状況の組み合わせ（集計基準合致学部）

<集計基準について>（再掲）

学部単位で「対象学生数が、①60人以上80人未満のとき、有効回答者数30人以上、②80人以上200人未満のとき、有効回答者数40人以上、③200人以上600人未満のとき、有効回答者数50人以上、④600人以上のとき、有効回答者数60人以上、⑤60人未満のとき、有効回答率50%以上」を集計基準として設定。

本調査の集計基準は、各大学・短期大学の学部・学科の回答としての代表性が損なわれないよう設定したものである。そのため、全体・設置者別・学年別の回答状況については学生から得られた全ての回答を集計に含めることとした。一方で、学部規模別・学部分野別の回答状況については、集計基準に合致した学部・学科の回答のみを集計している。（全体の回答状況以外のデータについては別添資料編に示す。）

<集計基準合致学部の回答状況>

対象	対象校数	対象学部数 ※短大においては 学科数	対象学生数 ※短大においては最終学年のみ		有効回答者数 ※短大においては最終学年のみ		回答率
			2年生	4年生以上	2年生	4年生	
大 学	328校	776学部	223,498	237,664	43,896	40,590	18.3%
短期大学	55校	85学科	7,932		4,674		58.9%

※今回の集計基準では、学部・学科の規模が60人未満の場合、50%の有効回答率を必要としていたため、規模の小さな学部・学科が基準を満たすことができず、別添資料編に示したデータについてはこうした学部・学科の特徴が反映されていない可能性がある。

4. 結果を踏まえた課題等

(1) 調査対象・時期・回答率について

第1回試行実施では大学3年生のみを対象としていたが、今回調査では、大学での学修経験や身に付いた能力に関する学生の自己認識を確認する観点から、大学2年及び修業年限の最終学年の大学生並びに最終学年の短期大学生を対象に調査を実施した。また、調査実施時期は、前は11月であったが、今回は2月とした。

回答率は、短期大学については27.6%であり、前回調査(27.3%)と同程度であったが、大学については11.8%となり、大きく下がる結果となった。さらに、大学においては、参加大学の約3割(255大学)、参加学部の約6割(1339学部)から集計基準に達する回答数を得られなかった。回答率の低下については、質問項目数の増加も要因として考えられるが、調査実施時期が回答率にどのような影響を及ぼすかについても、今後の調査実施時期の検討において考慮する必要があると考えられる。

(2) 回答方法について

インターネット(WEB)調査として実施したが、学生の回答方法はスマートフォン・PCがほとんどであり、自由記述にも回答方法に関する意見はほぼ見られなかったことから、回答方法は適切だったと考える。また、今回の調査から英語表記の回答フォーマットを用意したところ、約300件の回答が見られた。

(3) 質問項目について

オンライン授業に対する評価をはじめとする新型コロナウイルス感染症の影響等を把握するため、第1回試行実施から質問項目を36問から60問に増やしたところ、平均回答時間が前回よりも長くなる傾向が見られた。自由記述には「項目は適切」との意見も見られた一方で、「質問数が多い」という意見が多くみられたことから、学生の回答負担、回答率に及ぼす影響等も踏まえて、質問項目数を精選する必要がある。

その他、自由記述では、「抽象的な質問が多い」、「『役に立っていると思いますか。』という質問では回答しにくい」、「『大学に入ってから受けた授業の形態』を割合で表すことは難しい」などの意見があったことから、質問内容の工夫・改善についても検討していく必要がある。

(4) 各項目の回答状況について

《大学》

【Q10】「課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却された」

「あまりなかった」又は「なかった」と回答した割合が54%と半数を超えていた。この項目については、自由記述においても「課題を提出したがフィードバックがなく、どこまで理解できているのか、何が間違っているのかがわからなかった」等の意見が散見されたが、学生が教員等から適切なフィードバックを受けられないことは、学修の成果を学修者が実感できる「学修者本位の教育」の実現という観点からも課題であると考えられる。

【Q11】「グループワークやディスカッションの機会があった」、

【Q12】「教員から意見を求められる等、質疑応答の機会があった」

「あまりなかった」又は「なかった」と回答した割合が、Q11 で 35%、Q12 で 36% と、いずれの間においても 3 分の 1 を超えており、一方向性の講義を多く履修する学生が一定数いることが指摘できる。

【Q32】「外国語を使う力」

「あまりに身に付いていない」又は「身に付いていない」と回答した割合が 71%となっていた。多くの大学において外国語が必修科目とされている中で、多くの学生が学修成果を実感できていないことが明らかとなった。

【Q33】「統計などデータサイエンスの知識・技能」

この分野は、例えば「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画 2022」（令和 4 年 6 月 7 日閣議決定）の中でも「全国の大学等において、A I ・データサイエンス・数理等の教育を強化し、文系、理系を問わずこれらを応用できる人材を育成する」ことが盛り込まれるなど、デジタル社会の読み・書き・そろばんとして重視される分野であるが、「あまり身に付いていない」又は「身に付いていない」と回答した割合が 50%と約半数であった。⁵

【Q40】「大学が学生に卒業時まで身に付けることを求めている力（ディプロマ・ポリシーに示された知識・能力）を理解している」

「あまりそうは思わない」又は「そうは思わない」と回答した割合が 32%であったが、学生が自らの学修目標としてディプロマ・ポリシーに示された知識・能力について理解していることは学修者本位の教育を実現する上で重要であり、改善が望まれるか。

【Q41】「授業アンケート等の回答を通じて大学教育が良くなっている」

「あまりそうは思わない」又は「そうは思わない」と回答した割合が 59%であり、過半数の学生は、授業アンケート等が大学教育の改善に生かされているという実感がなく、明らかならなかった。

【Q43】「大学での学びによって自分自身の成長を実感している」

「そう思う」、「ある程度そう思う」と回答した割合は 78%であり、学生の約 8 割は大学教育を経て自らの成長を実感していることが明らかとなった。

【Q47】「授業への出席」 ※実験・実習、オンライン授業を含む

【Q48】「卒業論文・卒業研究・卒業制作」

【Q49】予習・復習・課題など授業に関する学習 ※卒業論文等は除く

⁵ 「統計などデータサイエンスの知識・技能」については学部分野別の差異が比較的大きく、理学・工学や農学においては「身に付いた」「ある程度身に付いた」とする回答の割合が高い（別添資料編 107 頁参照）。

大学2年生は、授業への出席時間について、約3分の2の学生が週16時間以上、38%の学生は週21時間以上であるなど、授業への出席時間が長い一方で、予習・復習・課題など授業に関する学習については週5時間以下の学生が41%を占めている。このように、授業への出席時間に比して授業に関する学習時間が短いことの背景としては、学期末の試験結果のみで単位認定が行われるなどの理由から学生が過剰な単位登録をしており、キャップ制が実質的に機能していないことなどが考えられるが、大学設置基準において1単位が45時間の学修を必要とする内容をもって構成されることを標準としている単位制度の趣旨に鑑みても大きな課題であると考えられる。

また、最終学年の学生については、授業への出席時間は6割以上の学生が週5時間以下となっており、これに伴い、授業に関する学習も週5時間以下の学生が75%を占めている。このように最終学年の学生は、授業への出席及び授業に関する学習時間が短い一方で、3分の1の学生が卒業論文・卒業研究・卒業制作に週21時間以上、4分の1の学生が週31時間以上と多くの時間を費やしていることがわかる。しかしながら、最終学年の学生であっても、3分の1の学生は卒業論文・卒業研究・卒業制作を行う時間が5時間以下であり、最終学年においては、学習時間が極めて短い学生も一定数いることが伺える。⁶こうした状況の背景には、就職活動等による影響や上記で指摘したキャップ制が実質的に機能していないといった課題があるものと考えられる。

【Q57】【Q58】「同時双方向型オンライン授業／オンデマンド型オンライン授業の割合」

同時双方向型、オンデマンド型ともに、学生の受けた授業の割合として、令和2年度よりも令和3年度の方が低かったことが明らかになった。このことは、大学における対面授業再開の動きによるものと考えられる。

【Q58】【Q59】「オンライン授業（同時双方向型／オンデマンド型）の対面授業と比べて良かった点・悪かった点」

新型コロナウイルス感染症を契機として急速に普及・展開したオンライン授業については、地理的・空間的・時間的制約に捉われないオンライン授業の利点について、多くの学生が感じていることが明らかになった。一方で、対面授業に比べて教員や他の学生とのやり取りがしにくいといった課題も明らかになるなど、オンライン授業の取組はまだ試行錯誤をしながら改善を図っていく段階にあり、今後、オンライン授業の質保証に向けた取組の進展が求められる。

【クロス集計】オンライン授業の割合と他の回答項目との関係性

同時双方向型オンライン授業（Q57S2（令和3年度分））とオンデマンド型オンライン授業（Q58S2（令和3年度分））の回答状況と他の回答項目との関係性を調べるため、問1「大学に入ってから受けた授業では、次の項目はどれくらいありましたか」（Q4～Q13）、問3「大学教育を通じて、次のような知識や能力が身に付いたと思いますか」（Q27～Q38）、問4「これまでの大学の学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思いますか」（Q39～Q46）、問5「今年度後期の授業期間中の平均的な1週間（7

⁶ Q47～49の回答については、学部分野別で比較的大きな差異が見られることに留意（別添資料編121～123頁参照）。

日間)の生活時間はそれぞれどのくらいですか」(Q47～Q54)の各問の回答とのクロス集計を行った。

このうち、Q11「グループワークやディスカッションの機会」、Q12「教員から意見を求められるなどの質疑応答の機会」、Q43「大学での学びによって自分自身の成長を実感している」については、同時双方向型オンライン授業の割合が高いグループと比較して、オンデマンド型オンライン授業の割合が高いグループの方が、ネガティブな回答の割合が明らかに高いという結果となった。

	ネガティブな回答(※)の割合		
	Q11	Q12	Q43
同時双方向 9割以上	28%	30%	19%
同時双方向 7～9割	27%	27%	19%
オンデマンド 7～9割	49%	46%	28%
オンデマンド 9割以上	50%	50%	29%
全体平均	35%	36%	22%

(※) ネガティブな回答とは、Q11、Q12においては「あまりなかった」、「なかった」、Q43においては「あまりそうは思わない」、「そうは思わない」を指す。

《短期大学》

短期大学については、概ね大学と同様の傾向が見られたが、大学と比較して、全体として、短期大学の教育活動、短期大学での学びに対する肯定的な回答の割合が高い傾向にあった。

問1関係では、【Q10】「課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却された」に関する「よくあった」「ある程度あった」は計66%であり、大学より20%高かったほか、【Q12】「教員から意見を求められるなど、質疑応答の機会があった」についても「よくあった」「ある程度あった」が計77%であり、大学より13%高かった。

問2関係では、全体として短期大学による学生支援等の有用性を高く評価する回答が多く、肯定的な回答(有用だった、ある程度有用だった)の割合が、例えば【Q14】「大学生活全般について相談する機会」で61%(大学45%)、【Q15】「大学での学修の方法(スタディ・スキル)を学ぶ科目で67%(大学51%)、【Q17】「授業以外で、教員に質問や学習の方法を相談する機会」で74%(大学58%)、【Q19】「キャリアに関する科目、キャリアカウンセリング(就職・進学相談)」で77%(大学45%)と、大学と比較して高い割合を示した。

問3関係では、【Q28】「将来の仕事につながるような知識・技能」が「身に付いた」「ある程度身に付いた」が計93%(大学76%)であり、職業教育の成果が評価されていると捉えることができる。

問4関係でも、全体として、短期大学の学生は、自らの成長や身に付けた知識・技能について、大学の学生と比較してより肯定的に評価していることが明らかになった。

問5関係では、【Q49】「予習・復習・課題など授業に関する学習」が5時間以下の学生の割合が65%であり、大学と比しても高い。【Q48】「卒業論文・卒業研究・卒業制作」では、75%の学生が何らかの卒業論文・卒業研究・卒業制作を行っているとのことであり、大学との単純な比較は困難であるものの、授業に関する学習時間の短さは大学と同様に課題であると言える。

(5) 調査結果の取扱いについて

今回調査は、適切な調査方法や質問項目などを整理・検証することを目的に、試行という位置付けで実施したため、公表内容は「全国学生調査の実施に関する有識者会議」における検討結果に基づき、(1) 全体の回答状況及び学部・学科の回答を(2) 設置者別、(3) 学部等規模別、(4) 学部・学科分野別、(5) 学年別（短期大学を除く）(6) 設置者別と学部等規模別の組み合わせにより整理したものとした。

なお、集計基準の設定や学部規模の区分方法、その他の組み合わせ方法等については、今回の試行実施における大学・学部ごとの回答状況（回答数、回答率）の傾向を勘案しつつ、引き続き有識者から意見を聴取し検討する。

また、各大学において調査結果を教育の改善に活用できるよう自大学の回答のみを個別に送付したところ、参加大学からは教授会・教学委員会等での周知、FD・SD 研修会での利用、IR 部門による分析などに活用したいとの意見があった。こうした意見も踏まえ、より適切な公表内容や活用方法について関係者・有識者から意見を聴取しつつ、さらに検討を進める。

(6) 今後の対応

文部科学省としては、大学における「学修者本位の教育への転換」をするための施策の検討の参考資料とするとともに、今回明らかになった調査実施上の課題を踏まえ、「全国学生調査」の本格実施に向けた検討を行う。

＜担当＞	高等教育局高等教育企画課高等教育政策室
室長	柿澤 雄二（内線 2473）
課長補佐	高橋 浩太郎（内線 3330）
係長	渡辺 真澄（内線 3332）
電話	03-5253-4111（代表）、03-6734-3332（直通）